

令和 6 年度 第 2 次菊川市総合計画進捗状況報告書

政策評価シート

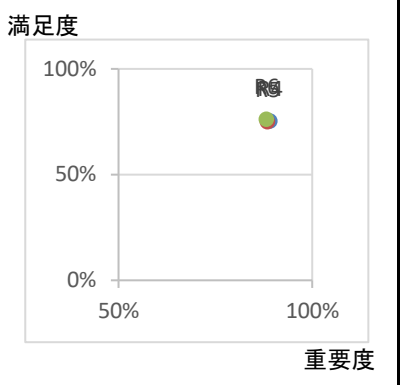
菊川市

目次	基本目標1 子どもがいきいき育つまち 【子育て・教育】	1
政策1	安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	1
政策2	親と子が健やかに成長できるまちづくり	2
政策3	安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	3
政策4	子どもの「生きる力」を育むまちづくり	4
政策5	人を育み、若者を育てるまちづくり	5
	基本目標2 健康で元気に暮らせるまち 【保健・福祉・医療・社会教育】	6
政策1	適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	6
政策2	高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	7
政策3	地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	8
政策4	障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	9
政策5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	10
政策6	生涯にわたり学べるまちづくり	11
政策7	芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	12
政策8	スポーツが盛んなまちづくり	13
	基本目標3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち 【産業】	14
政策1	農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	14
政策2	活力と魅力のある茶のまちづくり	15
政策3	商工業が活気あるまちづくり	16
政策4	人が訪れるまちづくり	17
政策5	消費者が安心して暮らせるまちづくり	18
	基本目標4 快適な環境で安心して暮らせるまち 【防災・環境・社会資本整備】	19
政策1	防災力を高めるまちづくり	19
政策2	交通事故・犯罪のないまちづくり	20
政策3	消防力を高めるまちづくり	21
政策4	豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	22
政策5	良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	23
政策6	上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	24
	基本目標5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち【コミュニティ・自助・共助・公助】	25
政策1	市民と行政との協働によるまちづくり	25
政策2	まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	26
政策3	性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	27
政策4	未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	28

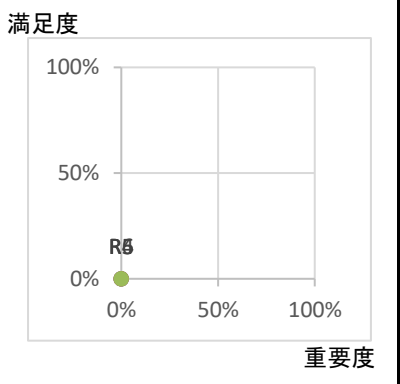
政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署		
R6	政策	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり														こども未来部		
		SDGsゴール	1	2	3	4	5	16										
コスト評価		事業費と割合(千円)								予算額比較(千円)								
		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度			R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
	政策事業費(予算)	3,121,943		3,306,893		4,175,837		3,831,817		政策費増減額	△ 999,976		184,950		868,944		△ 344,020	
										比較	76%		106%		126%		92%	
	政策事業費(決算)	3,027,774		3,222,141		4,077,138				一般財源増減額	52,668		52,149		87,829		△ 53,639	
										比較	105%		105%		108%		95%	
	コスト分析と課題	令和6年度は、小笠北認定こども園園舎新築工事により事業費が増加した。 こども医療費については令和5年10月からの無償化、児童手当については令和6年10月からの児童手当制度の改正、民間園への給付費については人事院勧告や物価上昇により、毎年、事業費が増加傾向にある。これら事業は、医療等のニーズや児童数に応じて大きく左右されるため、あらゆる情報を基にした将来推計等により、適正に管理していく必要がある。 今後も、国の子育てで戦略に関する予算の確保・執行に努めるとともに、待機児童対策、子育て環境の充実のため、利用者ニーズや社会情勢に合わせ、各種事業を検討していく必要がある。																
指標評価	総合計画														行政評価			
	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり							単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価	
									A	B	C			D	C/D			
								H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度				
	「子育てしやすいまち」だと思ふ市民の割合							%	80.2	85.0	75.2	75.0	76.1	84.5	90.1%	現未	B	
	関連する施策																	
	幼稚園に行くことを楽しみにしている園児の割合							%	99.2	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1%	S	B	
	関連する施策																	
	幼児施設入所待機児童数							人	1	0	0	0	0	0	100.0%	S	B	
	関連する施策																	
	子育て支援センター利用者数							人	62,520	67,700	32,632	39,073	40,398	67,124	60.2%	現未	E	
	関連する施策																	
関連する施策																		
関連する施策																		
関連する施策																		
指標分析と課題		幼児施設の入所待機児童数は、令和7年4月1日現在、「国定義務待機児童数0人」となったが、放課後児童クラブの利用待機児童と同様、すべての保護者のニーズに答えられていない状況であり、ニーズに応じた対応が必要である。 児童館・子育て支援センターの利用は、近年の子育て環境の変化、保護者の多様な就労形態によるニーズの高まりに伴い、前年度より増加したものと推測される。 今後も、保護者のニーズや社会情勢を的確に捉え、安心して子育てができるよう努める必要がある。																
評価分析	関連施策																	
	施策名							担当課			指標評価		総合判定評価				R8年度 拡充化○ 縮減化△	
													判定評価	R8の方向性				
	成果1	成果2	コスト	成果	改善													
	1 教育・保育サービスの充実に取り組みます							こども政策課			S		A	維持	維持	①		
	2 幼児教育・保育の質の向上を目指します							こども政策課			S		A	維持	維持	①		
	3 安心できる子育て環境を整備します							こども政策課			S		A	維持	維持	①		
4 子育て世代を応援します							子育て応援課			S		C	拡充	拡充	③			

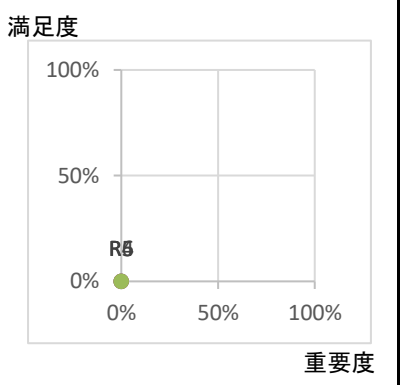
設問	1		「子育てしやすいまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	80.2%	85.0%	75.2%	75.0%	76.1%	そう思う(満足)	10.2%
						どちらかといえば思う	65.9%
			88.5%	88.2%	89.5%	どちらかといえば思わない	17.1%
						そう思わない(不満)	3.3%
重要度			89.1%	88.5%	88.2%	重要	50.6%
						どちらかといえば重要	37.6%
						重要ではない	8.3%



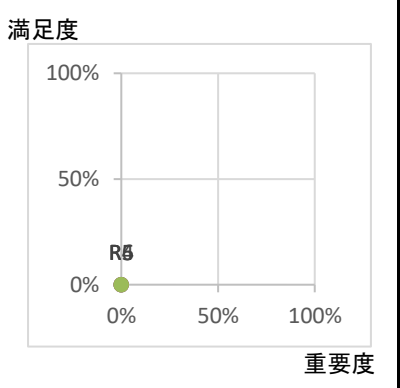
設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度					そう思う(満足)			
					どちらかといえば思う			
					どちらかといえば思わない			
					そう思わない(不満)			
重要度					重要			
					どちらかといえば重要			
					重要ではない			



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		

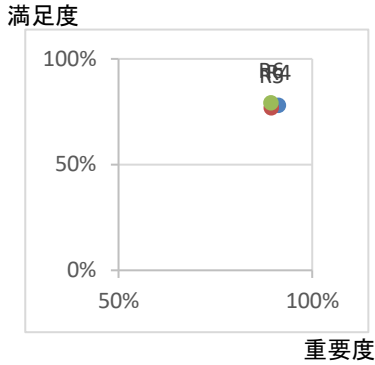


結果分析	設問1の満足度は現状値未満となったが、こども医療費の無償化等に伴い、前年度より上昇したものと推測される。例年、放課後児童クラブの利用待機児童の発生などの課題があるため、市民の満足度を向上するため、今後もより一層、子育て環境の充実に努めていく必要がある。										
	総合判定評価		A	見直し・検討無し			R8年度の方向性		コスト 拡充↑	成果 拡充↑	改善 ① 政策の進め方
児童館・子育て支援センターは、令和7年度から開館日を1日増やし、週6日とした。 放課後児童クラブは、令和7年度利用者分の待機児童対策として、地区センターの一室を確保し、受入れ体制の整備を行った。 今後も、令和8年度の「こども誰でも通園制度」、「ひとり親家庭等生活向上事業」等により、安心して子どもを産み育てられるまちづくりを着実に進めていく。											

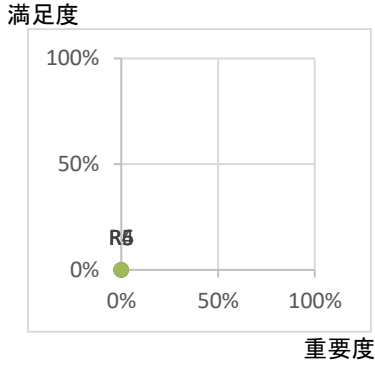
政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署	
R6	政策	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり														こども未来部	
		SDGsゴール	1	2	3	4	16										
コスト評価		事業費と割合(千円)							予算額比較(千円)								
		R4年度	R5年度		R6年度		R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度					
	政策事業費(予算)	251,137	236,439		260,443		247,624	政策費増減額	66,416	△ 14,698	24,004	△ 12,819					
								比較	136%	94%	110%	95%					
	政策事業費(決算)	235,450	220,612		249,887			一般財源増減額	△ 2,337	26,731	△ 8,695	△ 36,721					
								比較	99%	115%	96%	81%					
	コスト分析と課題	キャッチアップによる接種勧奨も実施している子宮頸がん予防ワクチンの接種者数増加及びおたふくワクチン任意接種者への助成開始により、予防接種事業費が増加した。 健診事業や予防接種事業については、常に出生の動向を確認して、予算管理・執行していく必要がある。 今後も不妊治療の一部保険適用、子宮頸がん予防ワクチンの接種勧奨など、国の制度改正や新たな方針決定について、市民が適正に利用していただくよう、さらなる周知が必要である。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価					
				A	B	C			D	C/D							
	「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合		%	82.5	88.0	78.0	76.8	79.1	87.4	90.5%	現未	B					
	関連する施策																
	乳幼児健診の受診率(1歳6ヵ月健診と3歳健診の平均)		%	96.5	100.0	100.1	101.7	102.6	99.6	103.0%	S	B					
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題		令和6年4月から「こども家庭センター」を設置し、妊娠から出産、育児まで、切れ目のない支援を進める体制整備に取り組んだ。 乳幼児健診の受診率は、様々な周知方法で健診の必要性を呼び掛けたことにより、前年度より上昇したものと推測される。 今後も健診等の機会を捉えて、子どもや保護者が必要とする支援へ繋げていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名					担当課		指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△				
										判定評価	R8の方向性						
			成果1	成果2		コスト	成果	改善									
	1 母子保健事業の実施で親と子の健やかな成長を支援します					子育て応援課		S		A	維持	維持	①				
	2 医療費助成で親と子の健康増進を推進します					子育て応援課		S		A	維持	維持	③				
	3 子どもの成長や発達の支援に取り組みます					子育て応援課		S		A	維持	維持	①				

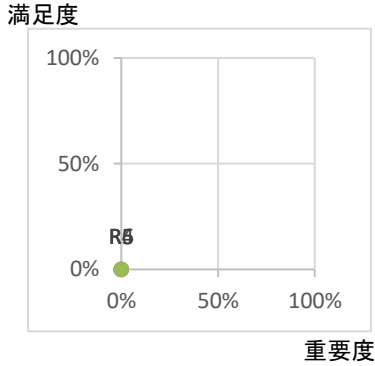
設問	1		「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	82.4%	88.0%	78.0%	76.8%	79.1%	そう思う(満足)	13.3%
			88.6%	87.3%	89.9%	どちらかといえば思う	65.8%
						どちらかといえば思わない	15.1%
						そう思わない(不満)	2.8%
重要度			91.3%	89.5%	89.4%	重要	53.3%
						どちらかといえば重要	36.1%
						重要ではない	7.5%



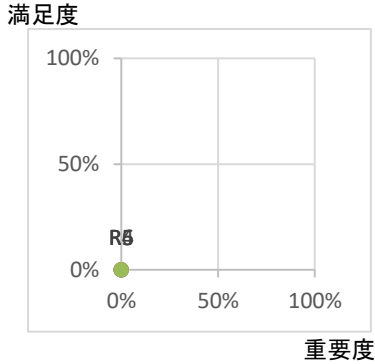
設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

設問1の満足度は現状値未滿となったが、「こども家庭センター」を設置し、発達に関する相談対象を未就学児から18歳まで拡充したことなどに伴い、前年度より上昇したものと推測される。
市民の満足度をさらに向上させるため、今後も母子保健事業、医療費助成、子どもの成長・発達の支援等を推進していく必要がある。

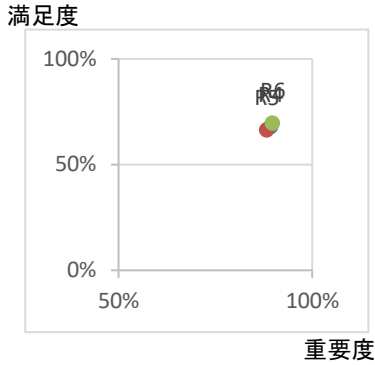
政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署	
R6	政策	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	1	2	4												
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	1,256,487	1,406,064	1,383,502	1,211,348	政策費増減額	193,313	149,577	△ 22,562	△ 172,154							
							比較	118%	112%	98%	88%						
	政策事業費(決算)	1,101,097	1,045,536	1,265,707		一般財源増減額	97,123	77,766	72,455	94,610							
							比較	122%	115%	112%	114%						
コスト分析と課題		令和6年度の決算額が伸びた要因は、前年度からの繰越事業として実施した小学校の校内LAN更新工事によりGIGAスクール関連の経費が大きな額となったためである。社会情勢の影響により人件費・材料費が高騰し、建築工事に係るコストは上昇している。また、学校施設の耐震補強工事は完了となったが、老朽化に伴う修繕工事費などの維持管理に要する経費が大きなものとなってきている。 学校給食については、物価の上昇に伴い賄材料費も増加傾向が続いたため、前年度に給食費の負担額を見直し、一食あたりの単価を引き上げたが、それでも不足し、一部を一般財源で補てんしなければならない状況が生じた。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思ふ市民の割合	%	74.1	79.0	67.8	66.3	69.6	78.5	88.7%	現未	C						
	関連する施策																
	学校施設の耐震化率	%	76.9	100.0	96.2	98.1	98.1	97.4	100.7%	B	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題		令和5年度の六郷小学校昇降口棟耐震補強・大規模改造工事の完成をもって市立小中学校の耐震補強工事は終了したため、耐震化率は前年度と同数値となっているが、令和6年度に菊川東中学校の技術棟を校舎の空き教室に移設し、旧技術棟については授業等で利用しない建物とすることで、実質的な耐震化率は100%となっている。こうした状況に加え、スクールガードをはじめ地域による見守り活動などが、市民アンケートにおける評価の上昇につながったものと推測する。														
関連施策																	
評価分析	施策名				担当課			指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△				
								成果1	成果2	判定評価	R8の方向性						
											コスト	成果	改善				
	1 学校施設を適正に維持管理し耐震化や長寿命化に努めます				教育総務課			B		A	維持	維持	①				
	2 安全で安心して教育が受けられる環境づくりに努めます				学校教育課、教育総務課			S		A	維持	維持	①				
3 安全でおいしい給食を安定的に提供します				教育総務課			S		A	維持	維持	①					

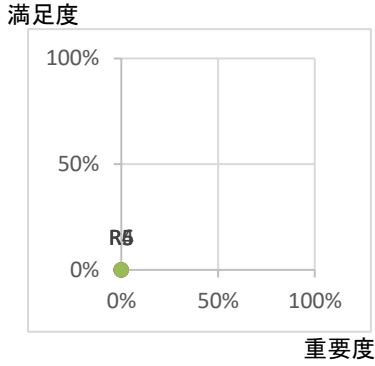
市民アンケート結果

総合評価

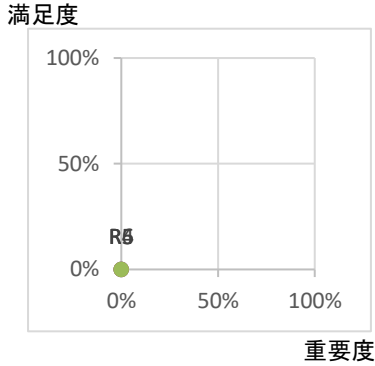
設問	1		「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	74.1%	79.0%	67.8%	66.3%	69.6%	そう思う(満足)	8.6%
						どちらかといえば思う	61.0%
			85.8%	83.9%	88.1%	どちらかといえば思わない	23.6%
						そう思わない(不満)	3.8%
重要度			89.3%	88.3%	89.8%	重要	52.6%
						どちらかといえば重要	37.2%
						重要ではない	7.0%



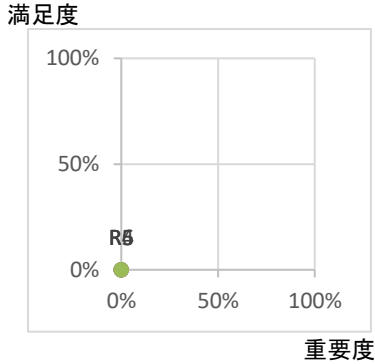
設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析 「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」の満足度、重要度ともに前年度より上昇し、高い評価を受けている。耐震補強工事の計画的な実施や老朽化した施設の適切な修繕、維持管理などに取り組むとともに、地域で子どもたちを見守る取り組みが評価を得ているものと推測する。また、物価上昇が続く中においても、安心安全でおいしい給食の提供を継続し、保護者負担の軽減にも取り組んだことも影響しているものと推測する。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	③	政策内容

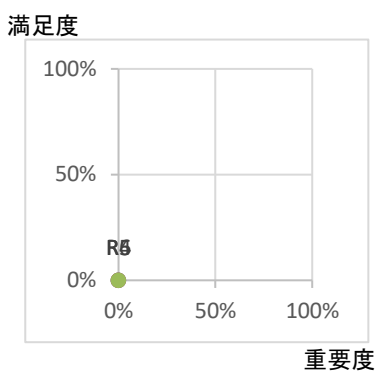
令和6年度は、菊川東中学校の技術棟を校舎内に移設したことにより、実質的な耐震化率100%を達成した。今後も、子どもたちの安全・安心な教育環境の整備を進めていくため、老朽化が進む施設・設備の長寿命化や、校舎等のバリアフリー化、特別教室へのエアコン設置などに取り組んでいく必要がある。
また、物価高騰の影響が続く学校給食については、単価見直しと保護者負担の在り方について取り組んでいく必要がある。

政策評価シート

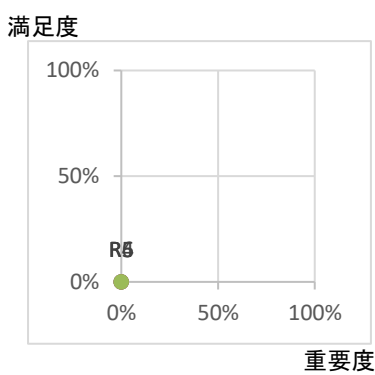
対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署	
R6	政策	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)							予算額比較(千円)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	233,139	278,839	291,557	303,231	政策費増減額	28,074	45,700	12,718	11,674							
						比較	114%	120%	105%	104%							
	政策事業費(決算)	226,297	273,297	282,460		一般財源増減額	35,780	52,194	17,088	13,017							
						比較	120%	125%	106%	105%							
	コスト分析と課題	令和5年度決算額の増加要因である小学校教科書の改訂準備に係る教師用教科書・指導書等の購入は完了したが、中学校の教材備品や教師用指導図書の購入、小中学校校内サーバのクラウド化、校務端末監視システムの導入、小中学校配置の会計年度任用職員の報酬等の増額があったため、前年度に引き続き決算額は増加している。 会計年度任用職員の報酬等については、今後しばらくは最低賃金の引上げが続くことが見込まれるため、今後も増加傾向が続いていく。事務の効率化などにより他の経費を抑制していく必要がある。一方、学習環境の整備に要する経費や、最適な学びを提供するための支援員配置に要する経費などについては、所要額を確保していく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価					
				A	B	C			D	C/D							
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<小学校>		%	92.0	93.0	93.4	93.1	93.1	92.9	100.2%	S	B					
	関連する施策																
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<中学校>		%	87.3	90.0	91.5	92.7	92.6	89.7	103.2%	S	B					
	関連する施策																
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<小学校>		%	91.9	93.0	93.0	91.6	92.8	92.9	99.9%	B	B					
	関連する施策																
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<中学校>		%	83.4	85.0	87.8	86.0	85.6	84.8	100.9%	S	B					
	関連する施策																
	「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<小学校>		%	90.6	91.0	94.8	93.0	94.2	91.0	103.5%	S	B					
	関連する施策																
	「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<中学校>		%	80.4	85.0	88.9	88.0	88.5	84.5	104.7%	S	B					
	関連する施策																
全国学力学習状況調査における平均正答率(全国を100)		%	103.7	104.7	99.2	99.2	99.6	104.6	95.2%	現未	B						
関連する施策																	
指標分析と課題		「学校が楽しい」「授業がわかる」「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合は年度により多少増減があるが、5つの項目で令和7年度目標値を上回っている。教員の配置状況やクラス編成などの要因による変動であるものと推測するが、極端な上昇、低下は生じていない。学力調査の結果は前年度よりも若干改善した。本数値も、極端な数値の変化は無いため、近年の傾向に沿ったものと推測する。引き続き、ICTを活用した授業の充実や不登校児童生徒への対応などきめ細かな対応を行っていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課			指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△				
										判定評価	R8の方向性						
	成果1	成果2	コスト	成果	改善												
	1 ICT環境を生かした魅力ある授業づくりを推進します				学校教育課			B	S	A	維持	維持	①				
	2 「一人ひとりが生きる教育」を推進します				学校教育課			現未		A	維持	維持	①				
	3 中学校区等を核とした学びの環境づくりを推進します				学校教育課			S		A	維持	維持	①				

市民アンケート結果

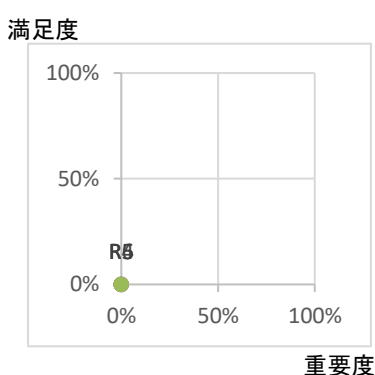
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



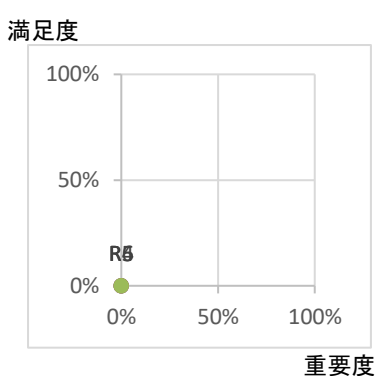
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析		※市民アンケート結果なし						
総合判定評価		B	軽微な見直し検討（一部施策）	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
					維持→	維持→	③	政策内容
ICTを活用した授業により、効果的な授業が行われている。また、令和6年度は市内3つの学舎（中学校区）においてコミュニティスクールの導入が行われた。								
引き続き、ICTを活用した教育の充実を図っていく。また、適応指導教室の運営や心の教育相談員の配置などによりきめ細かな指導を実施していく。加えて、新たに導入したコミュニティスクールにおいて、小・中学校の「たての連携」、学校・地域社会の「よこの連携」を進め、「地域の生かした教育」を基本理念とした「学びの庭」構想を推進していく。								

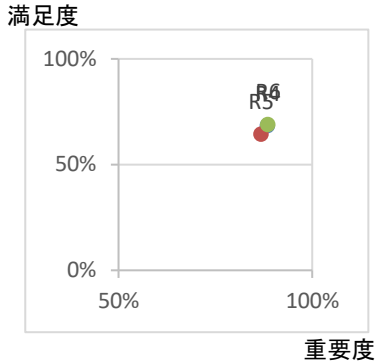
政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署	
R6	政策	5 人を育み、若者を育てるまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	15,507	15,233	16,759	19,298	政策費増減額	2,450	△ 274	1,526	2,539							
						比較	119%	98%	110%	115%							
	政策事業費(決算)	14,214	14,804	16,285		一般財源増減額	2,285	△ 308	1,408	1,967							
						比較	118%	98%	109%	112%							
	コスト分析と課題	各種講座やイベントなどの子どもたちの学習活動に係る事業費に大きな変動は無いが、会計年度任用職員の報酬・手当について、最低賃金の引上げや勤勉手当の支給開始の影響により、決算額が増となっている。国による最低賃金の引上げは、今後しばらくは続くものと見込まれることから、会計年度任用職員の雇用に係る経費の増加分を事務の効率化などの方法により確保していく必要がある。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	5 人を育み、若者を育てるまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価					
				A	B	C			D	C/D							
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合		%	72.4	82.0	68.4	64.3	68.9	80.9	85.1%	現未	C					
	関連する施策																
	12歳以下の児童図書年間貸出冊数(1人あたり)		冊	28.7	33.0	33.0	31.9	32.5	32.5	100.0%	B	B					
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
指標分析と課題		市民アンケートの指標は上昇に転じ、一昨年度の数値も上回っている。社会教育委員による市内小学生の学習会など地域の活動が評価されたものと推測する。今後は、学校のコミュニティスクール活動を充実し、地域と一体となって子どもたちの教育を進めていく必要がある。また、児童に対する貸出冊数の増加は、子育て中の世代を対象として継続的に図書館を利用するよう資料収集や特設コーナーの展示に取り組んだことなどによるものと推測する。引き続き、ニーズに沿った図書資料の提供に努めていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△					
									判定評価	R8の方向性							
	成果1	成果2	コスト	成果	改善												
	1 地域で子どもを守り育てる取り組みを進めます				社会教育課		S		B	維持	拡充	①					
	2 家庭の教育力向上に取り組めます				社会教育課		S		A	維持	維持	①					
3 子どもの読書活動を推進します				図書館		B		A	維持	維持	③						

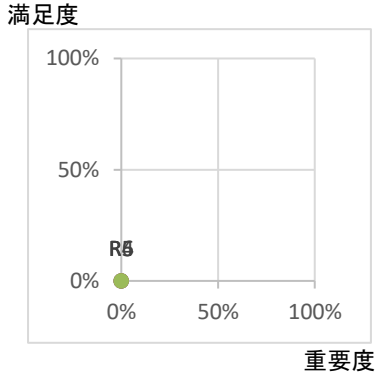
市民アンケート結果

総合評価

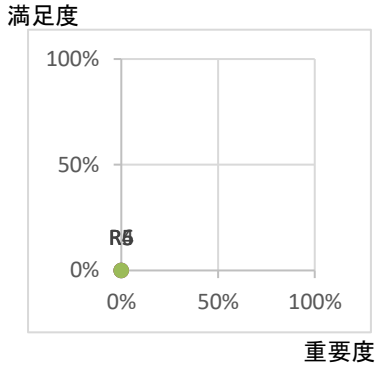
設問	1	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	72.4%	82.0%	68.4%	64.3%	68.9%	そう思う(満足)	8.3%
						どちらかといえば思う	60.6%
			83.4%	78.4%	84.0%	どちらかといえば思わない	24.1%
						そう思わない(不満)	4.0%
重要度			88.5%	86.8%	88.6%	重要	42.9%
						どちらかといえば重要	45.7%
						重要ではない	8.3%



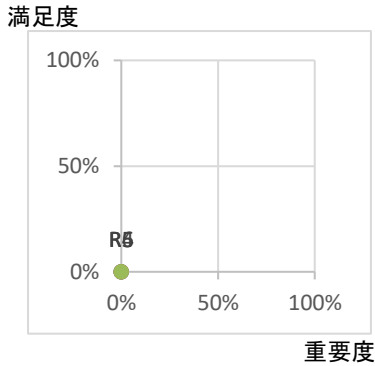
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

市民アンケートでは満足度、重要度とも上昇している。満足度については、地域における子どもたちを対象にした見守りや学習活動の成果が反映されたものであると推測する。重要度については、地域の活動により、学校、地域、家庭が連携し、皆でこどもや、若者を育てる取り組みを進めることの必要性が浸透したことによるものと推測する。

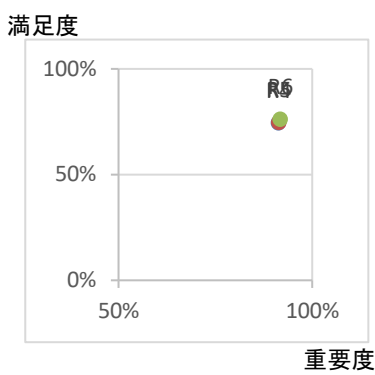
総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充 ↑	維持 →	③	政策内容
少年健全育成事業や放課後こども教室など地域や企業の皆様に御協力をいただくなかで、子どもたちや若者を育てる環境が整えられている。引き続き、学校・家庭・地域が一緒になって子どもたちを育てていく活動の充実を図っていく。							
また、図書館では、電子図書館サービスを開始した。開館時間や休館日、図書館までの交通手段にとらわれることなく本を借りられる環境があったことから、利用促進を図り読書習慣の定着につなげていく。							

政策評価シート

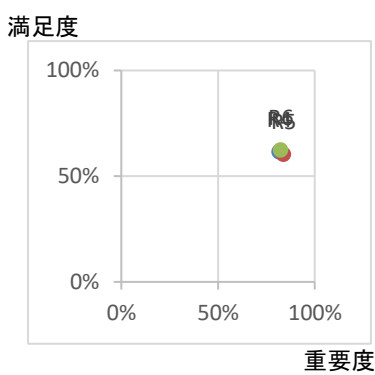
対象年度	基本目標 2 健康で元気に暮らせるまち															作成部署		
R6	政策	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり															健康福祉部	
		SDGsゴール	3															
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度								
	政策事業費(予算)	563,052	399,523	262,960	166,364	政策費増減額	△ 59,805	△ 163,529	△ 136,563	△ 96,596								
							比較	90%	71%	66%	63%							
	政策事業費(決算)	457,657	342,745	223,354		一般財源増減額	7,784	23,195	57,969	△ 68,517								
							比較	106%	118%	138%	67%							
	コスト分析と課題	施策1については、「第3次菊川すこやかプラン」策定が完了したため、令和6年度の事業費は減少した。 施策4の予防接種事業については、新型コロナワクチンが定期接種となったことから、市の財政負担が増加した。 「第3次菊川すこやかプラン(令和6～17年度)」に沿って、出張健康相談事業や健康マイレージ事業、各種検診事業等、概ね計画どおり実施することができた。 引き続き、事業実施に必要な予算確保及び適切な執行をしていく必要がある。																
指標評価	総合計画											行政評価						
	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価							
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度									
	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思 う市民の割合	%	79.5	85.0	74.5	74.6	76.1	84.4	90.2%	現未	B							
	関連する施策																	
	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」 だと思市民の割合	%	65.3	75.0	61.5	60.3	62.3	73.9	84.3%	現未	C							
	関連する施策																	
	「健診や健康相談など病気の予防対策が充 実しているまち」だと思市民の割合	%	65.5	76.0	67.2	65.3	68.1	74.8	91.0%	B	B							
	関連する施策																	
	一般成人 栄養のバランスに「気をつけてい る」と「少し気をつけている」人の割合	%	88.4	90.0	88.7	R11実施	R11実施	-	-	-	-							
	関連する施策																	
	一般成人 「普段運動をしている」人の割合	%	37.9	45.0	38.4	R11実施	R11実施	-	-	-	-							
	関連する施策																	
	関連する施策																	
関連する施策																		
指標分析と課題	令和6年度から17年度までを期間とする「第3次菊川すこやかプラン」に沿って、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を 図るため、「食育・食生活」や「運動」など6つの領域について、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康的な生 活習慣を実践できるようライフステージ別による健康づくり事業を実施している。 指標評価において、実績値の減少傾向が続いていたが、目標値には届かなかったものの、令和6年度は全ての実績 値が上昇した。 特に指標評価3については、2.8ポイント上昇しており、出張健康相談事業の効果が表れていると考える。 引き続き、「第3次菊川すこやかプラン」における目標値の達成に向け、健康づくり事業を推進していく必要がある。																	
評価分析	関連施策																	
	施策名				担当課				指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△				
											判定 評価	R8の方向性						
	成果 1	成果 2	コスト	成果	改善													
	1 健康増進事業の実施によりみんなの健康を作ります				健康づくり課				S		B	維持 拡充	③					
	2 検診事業の実施によりみんなの健康を維持します				健康づくり課				現未		A	維持 維持	①					
	3 心の健康事業の実施によりみんなの心の健康を作ります				健康づくり課				現未		A	維持 維持	①					
	4 予防接種事業の実施により疾病予防を行います				健康づくり課				S	S	C	縮小 維持	③					

市民アンケート結果

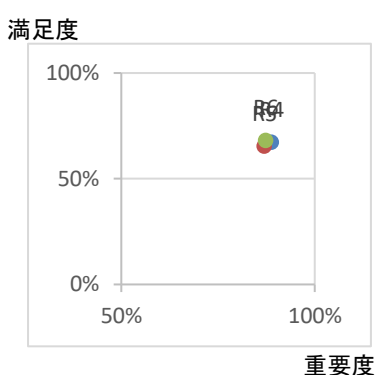
設問	1	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	79.4%	85.0%	74.5%	74.6%	76.1%	そう思う(満足)	14.2%
						どちらかといえば思う	61.9%
			87.6%	87.8%	89.5%	どちらかといえば思わない	18.7%
						そう思わない(不満)	3.3%
重要度			91.3%	91.4%	91.8%	重要	45.9%
						どちらかといえば重要	45.9%
						重要ではない	5.8%



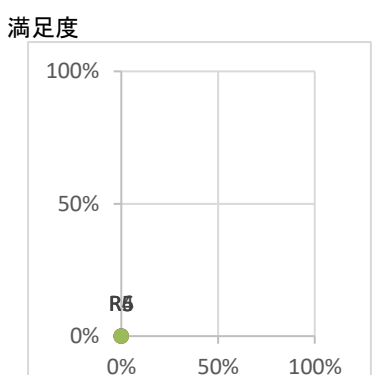
設問	2	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思う市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	65.3%	75.0%	61.5%	60.3%	62.3%	そう思う(満足)	7.4%
						どちらかといえば思う	54.9%
			82.0%	80.4%	83.1%	どちらかといえば思わない	31.2%
						そう思わない(不満)	4.3%
重要度			81.6%	83.9%	82.4%	重要	28.1%
						どちらかといえば重要	54.3%
						重要ではない	14.8%



設問	3		「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	65.5%	76.0%	67.2%	65.3%	68.1%	そう思う(満足)	12.3%
						どちらかといえば思う	55.8%
			88.4%	85.9%	89.6%	どちらかといえば思わない	25.9%
						そう思わない(不満)	4.5%
重要度			88.8%	87.0%	87.3%	重要	42.3%
						どちらかといえば重要	45.0%
						重要ではない	10.4%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	満足度や重要度について、令和6年度は全体的に上昇傾向となった。 令和6年度は、出張健康相談事業の実施が増加し、また、菊川市の男性についてはお達者年齢が3年連続県内第1位となる等、健康増進に関する事業や啓発が充実したことから、市民の健康に対する意識が高まったのではないかと考える。							
------	--	--	--	--	--	--	--	--

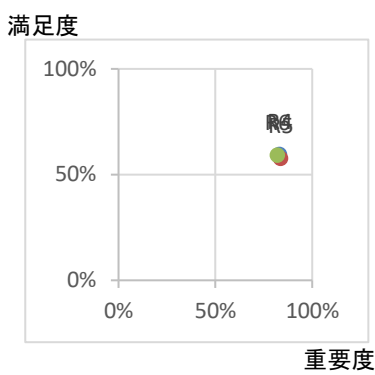
総合判定評価		B	軽微な見直し検討(一部施策)	R8年度の方向性	コスト 維持→	成果 拡充↑	改善 ③	政策内容
「適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり」を進めるためには、若い時期から健康に関心を持ち、健康への意識を高めてもらうことが重要である。 令和6年度から17年度を期間とする「第3次菊川すこやかプラン(第4期健康増進計画・第3期食育推進計画・第2次自殺対策行動計画)」に基づき、また、お達者年齢のSWOT分析結果を参考にしながら、引き続き、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目標に、「食育・食生活」、「運動」、「休養・こころ」、「アルコール・たばこ・薬物」、「歯と口の健康」、「健康管理」の6つの領域について、ライフステージごとの取り組みを進めていく。 なお、「第3次菊川すこやかプラン」は12カ年の計画となるため、令和11年度に取り組みの進捗状況や社会情勢の変化を踏まえ、中間評価を行うとともに見直しを行うものとする。								

政策評価シート

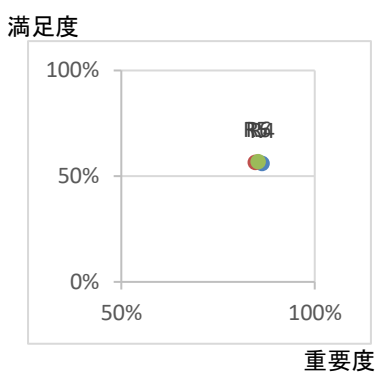
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり														健康福祉部	
		SDGsゴール	1	3	8	10	17										
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	669,211	691,790	682,218	711,246	政策費増減額	10,476	22,579	△ 9,572	29,028							
							比較	102%	103%	99%	104%						
	政策事業費(決算)	642,208	664,815	659,981		一般財源増減額	4,522	12,829	12,129	9,491							
							比較	101%	102%	102%	102%						
コスト分析と課題		令和5年度に遺贈寄附を受けた潮海寺地内の土地等の利活用に対して建物の解体等の実施、対象者の増加に伴う敬老事業経費や小笠老人ホームの利用実績に伴う負担金等の増額により事業費が増加した。 また、介護保険給付費の増加等により介護保険特別会計への繰出金が増額となったことで、事業費は微増となった。敬老会の開催を始め、在宅福祉サービスや介護サービスを提供するための各事業は適切に実施できている。 今後も高齢者数の増加が続くことから、介護予防事業や在宅福祉サービスの実施や安定的な介護保険サービスの提供のため、適切な予算確保及び執行に努める必要がある。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり						単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価	
								H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度			
	「高齢者が生きがいをもち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合						%	59.9	70.0	59.5	57.6	59.2	68.9	85.9%	現未	C	
	関連する施策																
	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合						%	55.9	66.0	56.0	56.5	56.8	64.9	87.5%	B	C	
	関連する施策																
	要支援・要介護認定を受けていない高齢者の割合						%	85.2	82.8	85.7	85.6	85.5	83.1	102.9%	S	B	
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題						高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるよう、地域包括支援センターの機能強化や介護予防に関する取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図るための取り組みを進めている。 指標評価1・2とも、前年度より実績値が上昇した。指標評価3については、前年度の実績値から0.1ポイント低下したが、目標値は達成している。 今後しばらく続く高齢者人口の増加を踏まえ、3年ごと策定する「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、介護予防に関する取り組みや認知症への対応、在宅医療・介護連携事業等について充実していく必要がある。											
評価分析	関連施策																
	施策名					担当課					指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△	
													判定 評価	R8の方向性			
	成果 1	成果 2	コスト	成果	改善												
	1 高齢者の介護予防と生きがいづくりを進めます					長寿介護課					C		A	拡充	拡充	②	
	2 地域包括ケアの体制を充実します					長寿介護課					S		A	維持	拡充	①	
	3 高齢者の生活を支援する介護サービスを推進します					長寿介護課					S		A	維持	維持	①	

市民アンケート結果

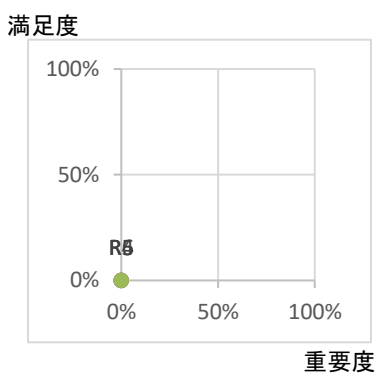
設問	1	「高齢者が生きがいをもち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	59.9%	70.0%	59.5%	57.6%	59.2%	そう思う(満足)	7.7%
						どちらかといえば思う	51.5%
			85.0%	82.3%	84.6%	どちらかといえば思わない	33.0%
						そう思わない(不満)	6.1%
重要度			83.2%	83.7%	82.0%	重要	34.9%
						どちらかといえば重要	47.1%
						重要ではない	15.4%



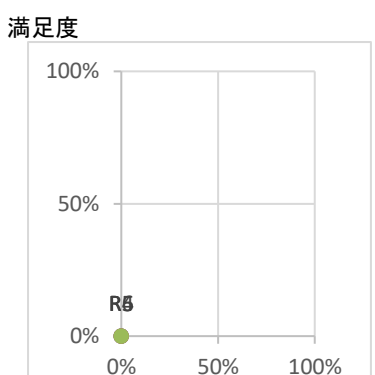
設問	2	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	55.9%	66.0%	56.0%	56.5%	56.8%	そう思う(満足)	5.9%
						どちらかといえば思う	50.9%
			84.8%	85.6%	86.1%	どちらかといえば思わない	35.3%
						そう思わない(不満)	6.3%
重要度			86.4%	84.7%	85.4%	重要	44.0%
						どちらかといえば重要	41.4%
						重要ではない	12.2%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

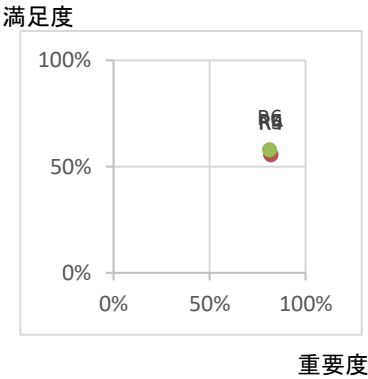
設問1・2の満足度及び重要度については、前年度より概ね上昇した。コロナ禍が過ぎ、介護予防事業の実施や介護保険サービスの利用が制限なくできるようになってきたことが要因の一つと考える。
「第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画(令和6～8年度)」で定めた3つの目標、①安心して暮らすことのできる基盤の整備、②生きがいづくりと介護予防の促進、③高齢者を支えるサービスの充実に向けた取り組みを、引き続き推進していく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充↑	拡充↑	③	政策内容
高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくりを進めるため、3年ごとに策定する「介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画」に基づき、計画的に事業を実施している。							
今後も高齢者人口が増加していくことから、地域包括ケアシステムの更なる深化・推進を図るため、介護予防事業や認知症施策、在宅医療・連携事業、適正な介護保険サービスの提供等を行い、高齢者が健康で活動的に暮らすことができるよう、引き続き「長寿いきいき安心プラン第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」に沿って事業を進めていく。							

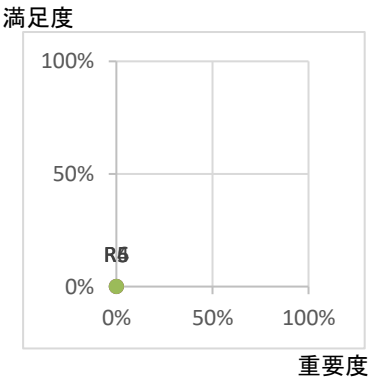
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり														健康福祉部	
		SDGsゴール	1	3	10	11	17										
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	467,974	823,592	498,404	379,658	政策費増減額	△ 193,908	355,618	△ 325,188	△ 118,746							
						比較	71%	176%	61%	76%							
	政策事業費(決算)	371,110	774,447	480,982		一般財源増減額	20,021	15,840	△ 16,712	△ 8,208							
						比較	114%	110%	91%	95%							
	コスト分析と課題	ブラザげやき照明設備のLED化工事が概ね終了したため、事業費は減額となった。また、LED化により電気使用量も削減された。 そのほか、令和6年度も実施した国の総合経済対策に基づく低所得世帯に対する給付金事業については、対象者や給付金額等の違いによる事業費の減少や、生活保護費における医療扶助費の大幅減額により、全体的な事業費が減少した。 ブラザげやきは建設から25年が経過しており、修繕箇所も増えていることから、公共施設個別施設計画を目途としながらも、状況に応じた予算確保や整備を行っていくことが必要である。 その他、地域福祉活動推進のための事業や運営費補助金、生活困窮者等に係る対応については、社会情勢に沿った対策を行っていく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」だと思ふ市民の割合	%	65.0	75.0	55.6	55.8	58.0	73.9	78.5%	現未	E						
	関連する施策																
	コミュニティ協議会の福祉部会に携わる人数	人	200	220	162	143	131	218	60.1%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	少子高齢・人口減少等の社会構造が変化する中で、市民の複雑化・複合化した生活課題に寄り添い、関連部署や関係機関、市民等と連携したきめ細やかな支援を行うため、市民等が支え合い、地域をともに創っていくことのできる「地域共生社会」の実現に向け、「第4次菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画(令和4～8年度)」に基づき取り組みを進めている。 指標評価1については、前年度より実績値が2.2ポイント上昇したが、指標評価2については、コロナ禍の影響に加え、地域福祉活動に関わる構成員の高齢化や高齢者の就業人口の増加等も影響し、回復が見られず前年度より減少してしまった。 引き続き、生活困窮者に対する支援や避難行動要支援者個別避難計画等、地域福祉計画に沿った取り組みを進めていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R8の方向性 コスト 成果 改善											
	1 地域における市民の福祉活動を支援します	福祉課	現未		A	維持	維持	①	拡充化○								
	2 地域福祉の担い手を育成・支援します	福祉課	現未		A	維持	維持	①	拡充化○								
	3 地域のなかでの自立した生活を応援します	福祉課	現未		A	拡充	拡充	①									

設問		1		「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度				
満足度	64.9%	75.0%	55.6%	55.8%	58.0%	そう思う(満足)		5.9%	
						どちらかといえば思う		52.1%	
						どちらかといえば思わない		34.7%	
						そう思わない(不満)		5.6%	
重要度			81.9%	81.8%	81.2%	重要		29.3%	
						どちらかといえば重要		51.9%	
						重要ではない		16.4%	



設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度				
満足度					そう思う(満足)				
					どちらかといえば思う				
					どちらかといえば思わない				
					そう思わない(不満)				
重要度					重要				
					どちらかといえば重要				
					重要ではない				



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		

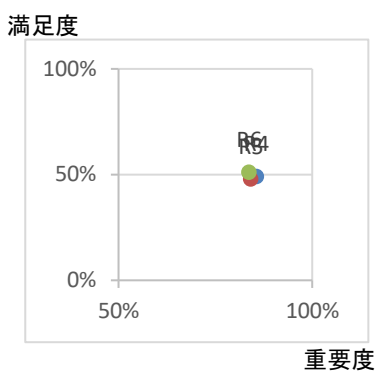
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり														健康福祉部	
		SDGsゴール	3	8	10												
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	1,222,698	1,343,502	1,535,418	1,526,778	政策費増減額	81,990	120,804	191,916	△ 8,640							
						比較	107%	110%	114%	99%							
	政策事業費(決算)	1,189,544	1,311,879	1,470,194		一般財源増減額	37,765	50,886	49,962	23,905							
						比較	110%	112%	111%	105%							
	コスト分析と課題	各種障害福祉サービスについて、利用者の増加等により、事業費は年々増加している。 東遠学園組合負担金については、令和6年度に開設した「きためばえ」に係る施設整備費分の減額はあったものの、人件費の増により増額となった。 施策の多くが国が定める障害福祉サービスの事業費であり、障がいのある人やその家族の生活や活動を支えるために必要な事業でもあるため事業費の削減は難しいが、相談事業所等と連携しながらサービス提供の適正化を図るとともに、適正な支給と予算の確保をしていく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合	%	43.5	59.0	49.1	47.8	51.1	57.3	89.2%	B	C						
	関連する施策																
	自立支援給付等決定対象者数	人	363	482	522	555	609	469	129.9%	S	A						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	障がいの有無にかかわらず、全ての人が社会の一員として、様々な活動への参加を通じて互いの理解を深め、尊重し合い、支え合うことで、安心して地域での生活を継続することができるよう、障害福祉サービス事業を実施している。 指標評価1については前年度より3.3ポイント上昇した。指標評価2の自立支援給付等対決定対象者数については年々人数が増加している。 サービスを必要とする人が、必要とするサービスを受けることができるよう制度の周知をするとともに、適正な支給決定に努める必要がある。また、サービス提供の適正化を図るとともに、障害福祉サービス提供体制の整備や福祉人材の確保も行っていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R8年度 拡充化○ 縮減化△								
			成果1	成果2	判定評価	R8の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 障がいのある人の自立した生活を支援します	福祉課	S		A	拡充	拡充	①	拡充化○								
	2 障がいのある人の地域での活動を促進します	福祉課	S		A	拡充	拡充	②	拡充化○								
	3 障がいのある子どもの福祉サービスを充実します	福祉課	S		A	拡充	拡充	①	拡充化○								

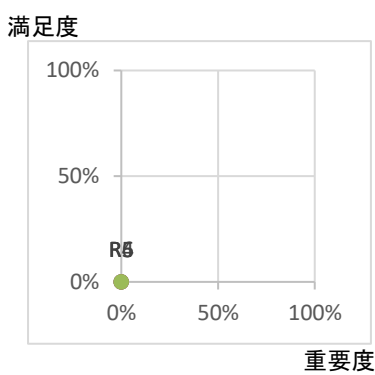
市民アンケート結果

総合評価

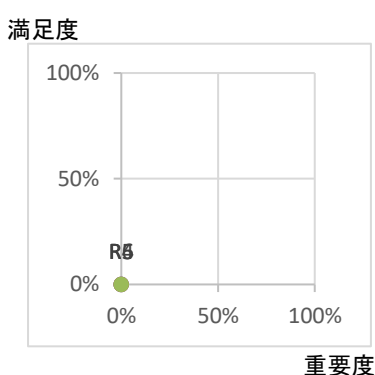
設問	1	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	43.5%	59.0%	49.1%	47.8%	51.1%	そう思う(満足)	4.4%
						どちらかといえば思う	46.7%
			83.2%	81.0%	86.6%	どちらかといえば思わない	39.3%
						そう思わない(不満)	7.4%
重要度			85.6%	84.2%	83.7%	重要	37.9%
						どちらかといえば重要	45.8%
						重要ではない	14.0%



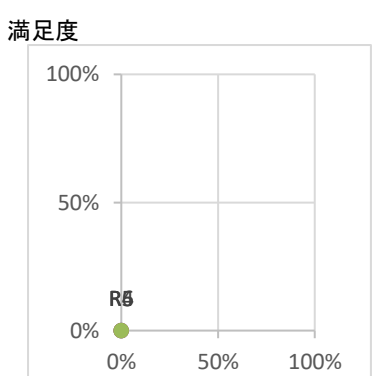
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	前年度より満足度は3.3ポイント上昇した。手話言語国際デーや世界自閉症啓発デーにおけるライトアップ、障がい者週間における啓発などにより、市民の理解が深まったものと考え。 重要度については年々低下しており、満足度向上とともに、引き続き、障がいに対するまち全体の意識や理解を高めていく必要がある。																
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

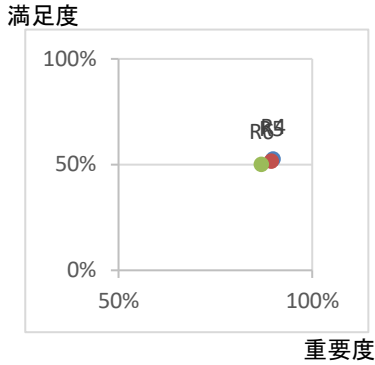
総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充 ↑	拡充 ↑	③	政策内容
「障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり」を進めるためには、地域生活の継続支援や就労支援など、障害サービスの提供体制を整え、地域全体で支える仕組みが必要である。 地域生活支援事業や障害福祉サービス事業については、利用者の状況やサービス利用動向を的確に把握し、サービスニーズに応えること できるような事業を推進するとともに、必要な予算確保と適正支給に努める必要がある。 掛川市・御前崎市・菊川市の3市にて策定した「第3次東遠地域広域障害者計画（令和6～11年度）」及び「第7期東遠地域広域障害福祉計 画・第3期東遠地域広域障害児福祉計画（令和年6～8年度）」に基づき、障がいのある人が自立した日常生活や社会生活ができるよう、障害 福祉サービスや地域生活支援事業を推進するとともに、障害者福祉サービス等を推進する仕組み作りを進めていく。							

政策評価シート

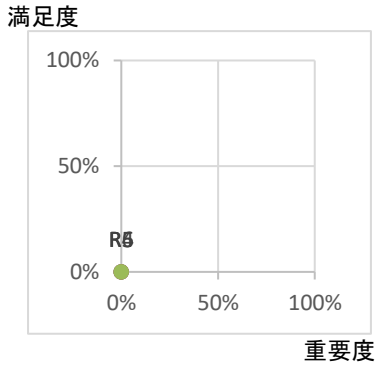
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり														菊川病院	
		SDGsゴール	3	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	1,229,636	1,183,739	1,085,907	1,094,258	政策費増減額	22,901	△ 45,897	△ 97,832	8,351							
						比較	102%	96%	92%	101%							
	政策事業費(決算)	1,229,613	1,182,603	1,085,903		一般財源増減額	△ 10,230	△ 14,272	△ 110,449	15,843							
						比較	99%	99%	91%	101%							
コスト分析と課題		地方公営企業法の規定による一般会計と公営企業会計との経費負担区分の原則に基づき、総務省から示された「地方公営企業繰出基準」に従い、一般会計から繰り入れられているものである。 病院の経営状況の悪化に伴い、経営支援を目的とした「基準外」の繰入が過去3年間に渡り特例措置として継続されてきたが、令和6年度は特例措置を廃止したことにより大幅に減額となった。 繰入金に依存しないため、経営の安定化に向けた具体策の実行が急務となっている。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思う市民の割合		%	46.7	62.0	52.5	51.5	50.0	60.3	82.9%	B	C					
	関連する施策																
	菊川病院への紹介率		%	35.6	40.0	34.1	49.3	48.5	39.5	122.8%	S	A					
	関連する施策																
	菊川病院からの逆紹介率		%	27.7	30.0	21.3	34.2	31.9	29.7	107.4%	S	B					
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題		医療連携体制はコロナ禍前の状況に戻りつつある。更には、前年からの整形外科の診療体制の充実も加わったことで、これまでよりも遠方からの利用患者の増加や連携先医療機関の拡大により紹介・逆紹介率の増加に繋がった。															
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△					
									判定 評価	R8の方向性							
			成果 1	成果 2		コスト	成果	改善									
	1 医療機関、介護・福祉施設などとの連携を進めます				地域医療支援課		S	S	A	維持	維持	①					
	2 菊川市立総合病院の機能を充実します				病院総務課、健康づくり課		S		A	維持	維持	①					
	3 家庭医養成プログラムを推進します				経営企画課		B		A	維持	維持	①					
	4 市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します				健康づくり課、経営企画課		S		A	維持	維持	①					

市民アンケート結果

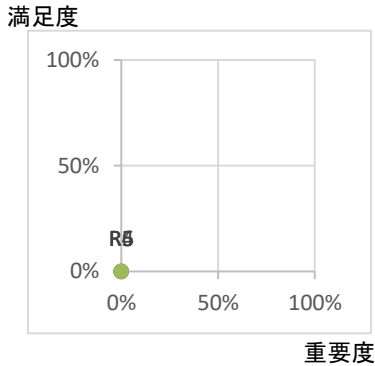
設問	1		「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	46.7%	62.0%	52.5%	51.5%	50.0%	そう思う(満足)	5.9%
						どちらかといえば思う	44.1%
			84.7%	83.1%	80.6%	どちらかといえば思わない	39.7%
						そう思わない(不満)	9.0%
重要度			89.9%	89.5%	86.9%	重要	49.9%
						どちらかといえば重要	37.0%
						重要ではない	11.4%



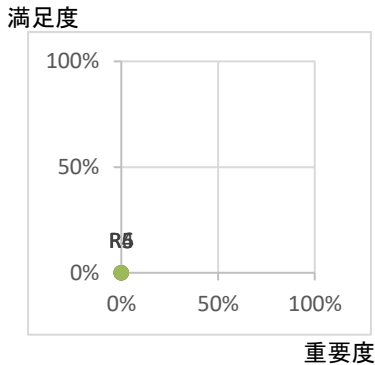
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



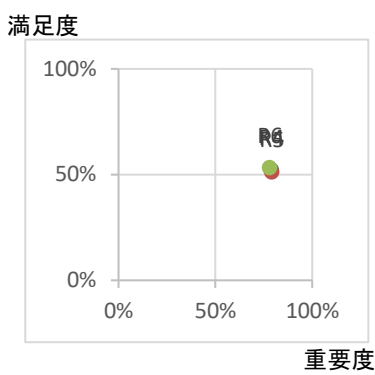
結果分析	重要な設問であると判断されている市民が86.9%に対して、現状については50.0%の方しか満足されていない状況である。															
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	①	政策の進め方
市民に安心して医療を受けていただくためには、当院の診療機能の維持・継続は必須条件となる。今後も浜松医科大学との連携による病院勤務医の確保、家庭医の招聘により医療提供体制の充実に取り組むとともに、不足する診療機能については、近隣医療機関との連携強化を進めることで、市民が安心できる医療提供体制の確保に努めていく。							

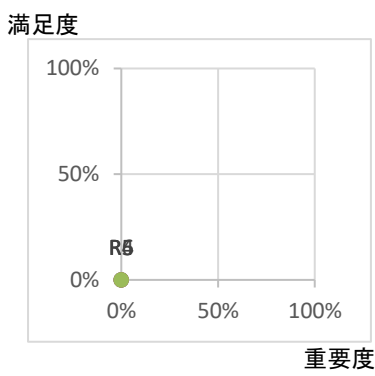
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	6 生涯にわたり学べるまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	11	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	78,962	74,897	97,536	93,848	政策費増減額	3,496	△ 4,065	22,639	△ 3,688							
						比較	105%	95%	130%	96%							
	政策事業費(決算)	77,047	74,300	97,126		一般財源増減額	915	△ 1,968	18,314	564							
						比較	101%	97%	125%	101%							
	コスト分析と課題	令和6年度は、図書館システムの更新及び電子図書館システムの新規導入があったため、事業費が大きく増となっている。図書館の施設・設備の経年劣化に伴い、修繕必要箇所が増えてきているため、大規模な修繕に至らないよう計画的に修繕、更新を行って必要がある。 また、物価高騰の影響は図書購入にも及んでおり、限られた予算のなかで市民のニーズにあった図書の購入を進めていく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	6 生涯にわたり学べるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合	%	51.6	62.0	52.3	51.3	53.2	60.8	87.4%	B	C						
	関連する施策																
	生涯学習講座の参加者数	人	515	600	233	259	263	591	44.5%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題	生涯学習講座開設数の増や図書館における電子図書館サービスの開始など生涯学習環境の充実が「生涯にわたり学習ができるまち」と思う市民の割合増加につながったものと推測する。 高齢化が進むなかで、生涯学習の機会を求める市民の数は今後増えていくと考えられることから、市民が学べる機会を更に充実していく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果 1	成果 2	判定 評価	R8の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 生涯学習活動を推進します	社会教育課	現未		B	維持	拡充	③									
	2 読書環境の整備に努めます	図書館	S		A	維持	維持	③									
	3 読書機会の提供・読書活動の啓発に努めます	図書館	現未		A	維持	維持	③									

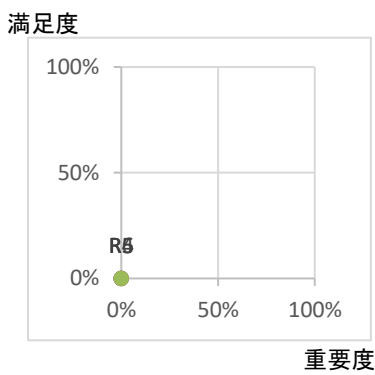
設問	1		「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	51.6%	62.0%	52.3%	51.3%	53.2%	そう思う(満足)	4.8%
						どちらかといえば思う	48.4%
			84.4%	82.7%	85.8%	どちらかといえば思わない	38.2%
						そう思わない(不満)	7.5%
重要度			78.9%	79.2%	78.1%	重要	22.4%
						どちらかといえば重要	55.7%
						重要ではない	20.1%



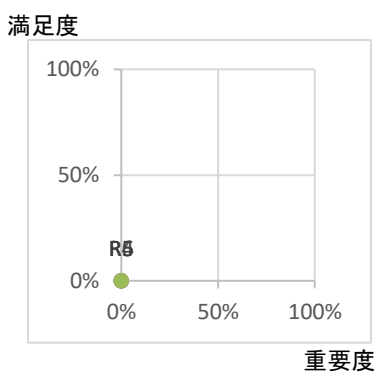
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

満足度は昨年と比較して上昇しているが、重要度は低下しており、前年度とは逆の結果となった。各種講座数の増や電子図書館サービスの開始など生涯学習環境の充実がなされた一方で、物価高騰が続く社会状況から、生涯学習に対する関心が相対的に低下しているものと推測する。

総合判定評価		B	軽微な見直し検討(一部施策)	R8年度の方向性	コスト 維持→	成果 拡充↑	改善 ①	政策の進め方
生涯学習講座の増や電子図書館サービスの開始など、令和6年度は多くの学習環境の充実を図ることができた。今後、高齢化が進むなかで、様々な学習ニーズが求められてくると考えられることから、市長部局と連携を図る中で、多様な学習機会の提供を進め、生涯学習の推進に取り組んでいく。								

政策評価シート

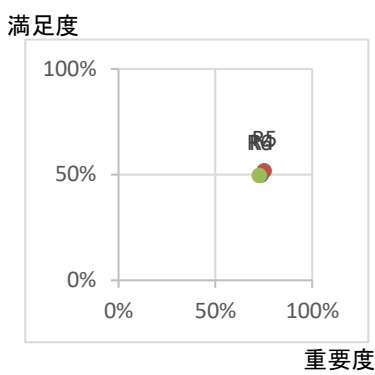
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	11													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	374,114	386,312	242,997	234,806	政策費増減額	110,673	12,198	△ 143,315	△ 8,191							
						比較	142%	103%	63%	97%							
	政策事業費(決算)	366,669	365,743	237,153		一般財源増減額	31,062	16,342	△ 18,584	1,509							
						比較	124%	110%	90%	101%							
	コスト分析と課題	菊川文化会館アエルの設備更新に年々大きな経費がかかっている。令和6年度は大ホール舞台吊物機構改修工事(第1期)及び空調吸収冷温水機分解整備工事及び第一変電所受電盤改修工事を実施した。令和5年度よりも大きく減となったのは、アエルの設備更新関連事業費の減と埋蔵文化財センター雨漏り修繕工事の完了によるものである。今後も計画的に設備の更新を実施し、市民に対し安定的に文化活動の発表、鑑賞機会が提供できる環境を適切に維持していく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合	%	39.1	54.0	44.0	41.0	41.4	52.3	79.1%	B	D						
	関連する施策																
	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合	%	40.8	56.0	50.6	48.2	49.6	54.3	91.3%	B	B						
	関連する施策																
	文化祭の来場者数	人	3,250	4,000	1,563	1,488	1,379	3,917	35.2%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	市民アンケートの結果から、芸術文化活動や歴史・文化遺産に対する認知度が少しずつ向上していると考え。市制施行20周年記念事業として実施した文化会館アエルの主催事業や菊川歴史検定などインパクトのある事業の実施が影響しているものと推測する。 文化祭は、2年間の中止を経て令和4年度から再開しているが、来場者数は減少傾向にある。各種文化活動団体等への支援とともに、開催方法の見直しも視野に入れていく必要がある。															
	評価分析	関連施策															
		施策名		担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△							
成果 1					成果 2	判定 評価	R8の方向性 コスト 成果 改善										
1 鑑賞機会の提供に努めます			社会教育課	S		A	維持	拡充	①								
2 市民の文化・芸術活動を支援します			社会教育課	現未		B	維持	拡充	①								
3 文化財の保存・周知・活用を推進します			社会教育課	S		A	維持	拡充	①								

政策評価シート

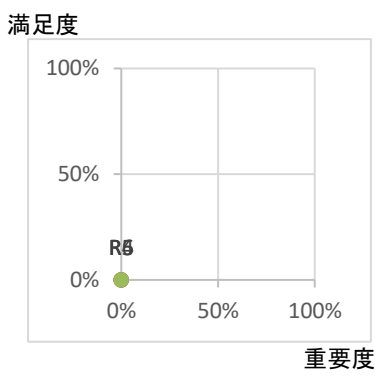
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	8 スポーツが盛んなまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	3	11	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	118,061	192,989	166,585	501,328	政策費増減額	29,805	74,928	△ 26,404	334,743							
						比較	134%	163%	86%	301%							
	政策事業費(決算)	116,467	151,412	158,414		一般財源増減額	8,416	7,259	1,056	2,024							
						比較	111%	108%	101%	102%							
	コスト分析と課題	前年度に引き続き、スポーツ施設の老朽化に伴う設備更新や照明施設のLED化に係る経費が大きなものとなっている。令和6年度は菊川公園グラウンドの照明LED化、災害対策本部棟及び新堀之内体育館建設実施設計、和田公園多目的広場・丹野グラウンドバックネット改修、和田公園多目的広場ナイター設備LED化実施設計などを実施した。引き続き、適正な維持管理を行い、安心してスポーツのできる環境を整えていく必要がある。 また、中学校部活動の地域展開を進めるための試行が陸上競技で始まった。今後、検討や調整のための人的コストや活動場所確保に係る物的コストの増加が見込まれる。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	8 スポーツが盛んなまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だ と思う市民の割合	%	54.0	59.0	49.7	51.7	49.6	58.4	84.9%	現未	C						
	関連する施策																
	スポーツ施設年間利用者数	人	244,924	255,000	364,371	379,232	366,343	253,880	144.3%	S	S						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題	コロナ禍以降スポーツ施設の利用者数は着実に増加していたが、令和6年度は前年度よりも減となった。これと同様に「誰もがスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合も減となっている。市及び市スポーツ協会主催のスポーツ活動はコロナ禍前と同様に行われているが、少子高齢化やコロナ禍後の地域活動の変化などにより、地域のスポーツ活動や団体の活動に変化が生じてきていることが影響しているものと推測する。「スポーツに気軽に取り組みたい」人たちに機会を提供できるよう、教室等の開催方法の工夫や施設の適切な維持を図っていく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課				指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△			
									成果 1	成果 2	判定 評価	R8の方向性 コスト	成果		改善		
	1 誰もがスポーツに触れ合う機会を創出します				社会教育課				B		B	維持	拡充	③			
	2 スポーツ活動の場を提供します				社会教育課				S		A	拡充	拡充	①			
	3 スポーツ団体・スポーツ活動を支援します				社会教育課				現未		B	維持	拡充	①			

市民アンケート結果

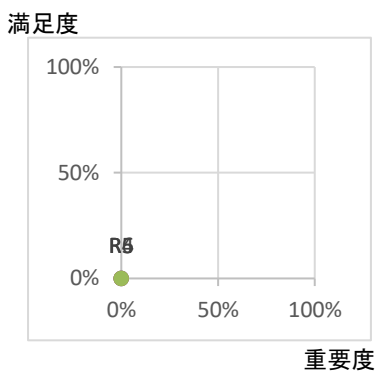
設問	1	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	54.0%	59.0%	49.7%	51.7%	49.6%	そう思う(満足)	6.0%
						どちらかといえば思う	43.6%
			84.2%	87.6%	84.1%	どちらかといえば思わない	41.3%
						そう思わない(不満)	7.9%
重要度			73.8%	75.3%	72.7%	重要	18.0%
						どちらかといえば重要	54.7%
						重要ではない	25.6%



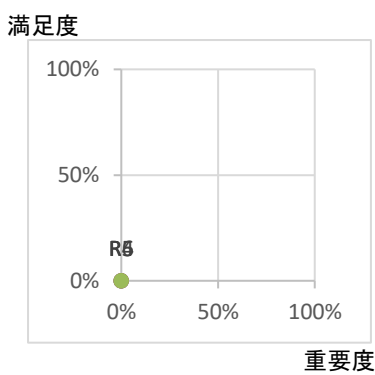
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



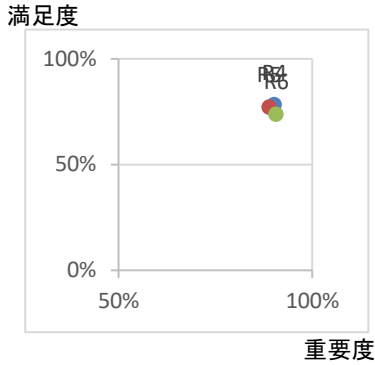
結果分析 少子高齢化などにより、地域のスポーツ活動や団体の活動に変化が生じてきていることに加え、物価高騰が続く社会状況から、スポーツに対する関心が相対的に低下しているものと推測する。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R8年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
市やスポーツ協会主催事業など多くの大会やイベントは開催されているが、施設の年間利用者数は減となっている。少子高齢化やコロナ禍後の地域活動の変化などにより、地域のスポーツ活動や団体の活動に変化が生じてきていることが影響していると考えられることから、スポーツに取り組む意欲を持った人たちに、実施可能な機会・環境を提供することにより、普及、振興を図っていく。また、施設の老朽化が進んでいるため、市民が安全・安心に施設が利用できるよう適正な維持、管理及び長寿命化に取り組んでいく。加えて、中学校部活動の地域展開が円滑に行われるよう協議、調整を進めていく。						

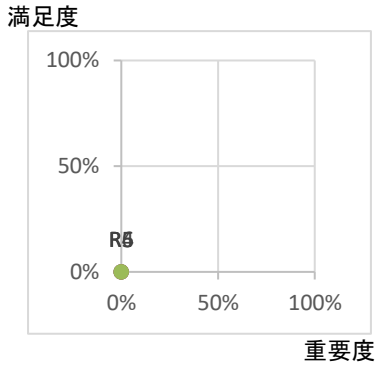
政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち														作成部署	
R6	政策	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり														建設経済部	
		SDGsゴール	2	5	8	15											
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	694,230	574,595	328,815	306,389	政策費増減額	77,886	△ 119,635	△ 245,780	△ 22,426							
							比較	113%	83%	57%	93%						
	政策事業費(決算)	361,982	555,369	320,413		一般財源増減額	△ 4,479	△ 8,019	14,074	△ 36,414							
							比較	98%	96%	107%	83%						
	コスト分析と課題	農業振興を図るための予算としては、地域特産物推進事業費補助金や水田高収益作物生産転作推進事業費補助金の活用者が増加しており、成果として表れている。市の施策は担い手確保のためにやる気のある農業者を後押しするものであり、引き続き補助金等の支援は必要である。 事業費の多くは土地改良事業の予算であるが、農地集積等には基盤整備が欠かせない。また、ため池の耐震補強工事により、市民生活の安心・安全を守るため必要な予算である。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合	%	78.0	83.0	78.3	77.2	73.7	82.4	89.4%	現未	C						
	関連する施策																
	地域特産作物の開発数	件	0	4	3	4	4	4	100.0%	S	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	経営基盤の強化を図るためにも高収益作物との複合経営を進めており、地域特産物については、「白ネギ」の生産者が3名、「オリーブ」の生産者が1名増えている。引き続き次世代農業モデルを目指し、各種事業を進めていく。															
	評価分析	関連施策															
施策名		担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R8の方向性											
			コスト	成果	改善												
1 菊川型農業モデルの創出を図ります		農林課	B		A	維持	維持	①									
2 経営感覚に優れた担い手の確保と育成を図ります		農林課	S		A	維持	拡充	①									
3 農業経営基盤の強化を促進します		農林課	C		A	維持	維持	①									
4 農地の適正な管理と利用を促進します		農林課	S		A	維持	維持	①									
5 農業生産基盤の整備と維持管理を行います		農林課	B		A	維持	維持	①									

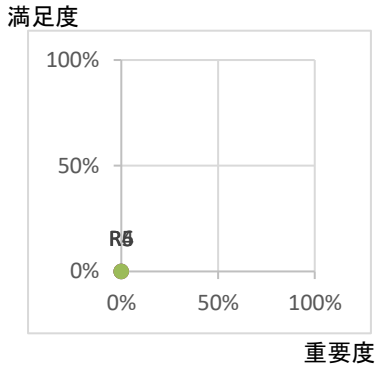
設問	1		「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	77.9%	83.0%	78.3%	77.2%	73.7%	そう思う(満足)	15.4%
						どちらかといえば思う	58.3%
			94.3%	93.0%	88.8%	どちらかといえば思わない	20.6%
						そう思わない(不満)	5.0%
重要度			90.2%	88.9%	90.7%	重要	42.2%
						どちらかといえば重要	48.5%
						重要ではない	7.9%



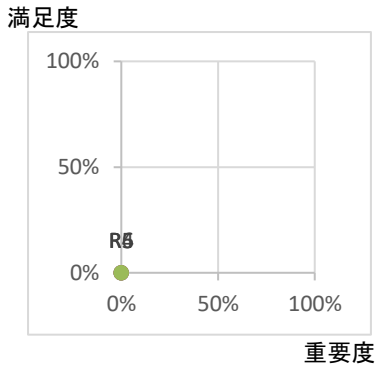
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	市民アンケート結果では、満足度において開始時以下、昨年度以下となった。市内には優れた農産物・生産者がたくさん存在するが、まだまだ市民へのPRが足りない。このため引き続き各種事業を推進するとともに情報発信にも力を入れていく。															
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

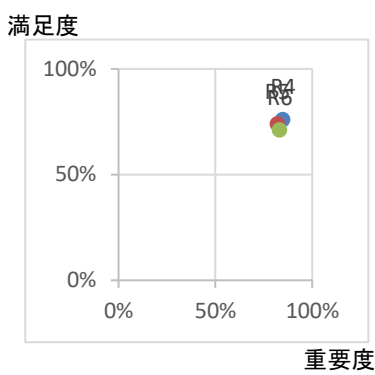
総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	①	政策の進め方
高齢化による後継者不足等農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。「みどりの食糧システム戦略」を推進していくにあたり、引き続き、経営基盤の強化・担い手の確保・地域計画・農地集積・農業DX化・有機農業等の各種事業を実施していく。また、農業委員会等と連携し、荒廃農地解消も進めていく必要がある。							

政策評価シート

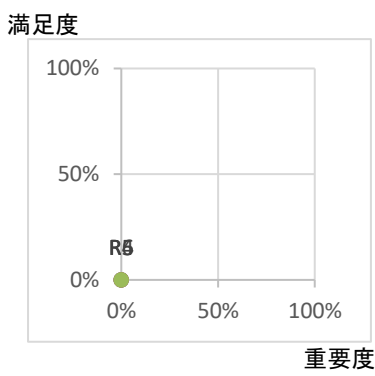
対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち														作成部署	
R6	政策	2 活力と魅力のある茶のまちづくり														建設経済部	
		SDGsゴール	2	8													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	30,922	24,030	37,131	39,612	政策費増減額	△ 401,001	△ 6,892	13,101	2,481							
						比較	7%	78%	155%	107%							
	政策事業費(決算)	29,985	22,834	28,027		一般財源増減額	2,845	△ 869	10,625	△ 1,694							
						比較	114%	96%	149%	95%							
	コスト分析と課題	菊川茶の生産基盤を維持していくためには、茶農家等への支援は大変重要である。支援の拡大も含め予算化していく必要がある。また、リーフ茶の需要を伸ばすためには消費拡大事業や茶文化の継承も重要であるため、引き続き現予算を確保する必要がある。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	2 活力と魅力のある茶のまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合	%	82.7	88.0	76.0	73.9	71.1	87.4	81.3%	現未	C						
	関連する施策																
	茶園管理組織経営体数	経営体	5	16	6	6	7	15	46.7%	C	D						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
		指標分析と課題	茶単価の低迷や担い手不足により各茶農協の運営や自園自製農家もさらに厳しくなることが予想されるため、生産・販売を含めた法人化を進める必要があり、法人化した茶農協等の経営内容をさらに進化させ市内の茶農協等への波及が必要である。														
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課			指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△				
								成果1	成果2	判定評価	R8の方向性 コスト	成果		改善			
	1 活力ある茶業の振興を推進します				茶業振興課			C		B	拡充	拡充	③	拡充化○			
	2 茶の消費拡大を図ります				茶業振興課			C		B	維持	拡充	③	拡充化○			
	3 茶文化を継承します				茶業振興課			B		A	維持	維持	③	拡充化○			

市民アンケート結果

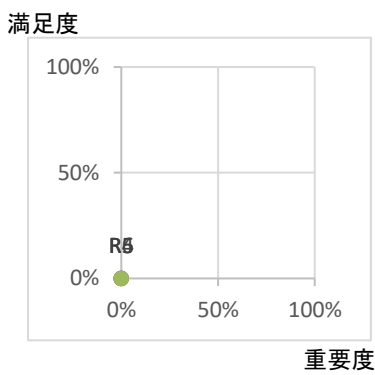
設問	1	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	82.7%	88.0%	76.0%	73.9%	71.1%	そう思う(満足)	26.8%
						どちらかといえば思う	44.3%
			86.4%	84.0%	80.8%	どちらかといえば思わない	22.2%
						そう思わない(不満)	5.9%
重要度			84.9%	82.0%	83.2%	重要	35.4%
						どちらかといえば重要	47.8%
						重要ではない	15.0%



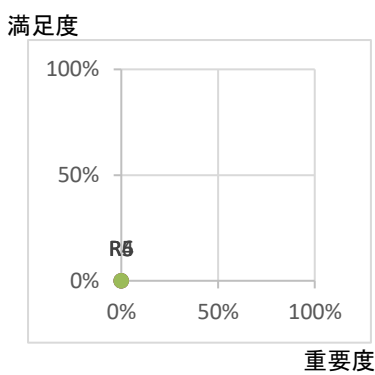
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



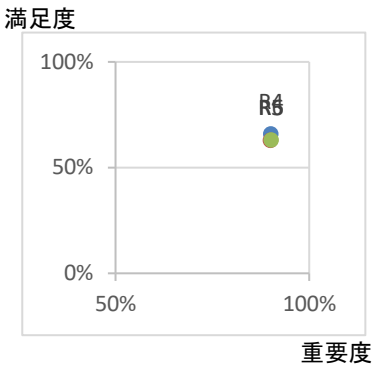
結果分析

市民アンケート結果については、満足度において開始時以下、昨年度以下となった。茶業が厳しい現状に対して、市民も盛んではなくなっていると感じている結果である。「第2次菊川市茶業振興計画(菊川茶産地持続化計画)」に掲げた事業を確実に推進し、また、GI登録を契機として、茶経営体の強化とともに、消費拡大・販路拡大に向けさらにPRを行っていく必要がある。また、抹茶需要が好調なため国内向けや輸出用に碾茶の生産体制を整える必要がある。

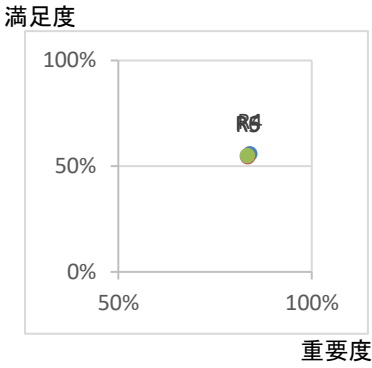
総合判定評価		A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善
					維持→	維持→	① 政策の進め方
「第2次菊川市茶業振興計画(菊川茶産地持続化計画)」に掲げた事業を確実に推進する。また、菊川茶海外輸出推進協議会において海外向け菊川茶の販路開拓や生産体制について問題課題を整理し、解決に向けて取り組んでいく必要がある。							

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち															作成部署	
R6	政策	3 商工業が活気あるまちづくり															建設経済部	
		SDGsゴール	4	5	8	9	10											
コスト評価			事業費と割合(千円)							予算額比較(千円)								
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R4年度			R5年度	R6年度	R7年度						
	政策事業費(予算)		690,415	612,933	525,381	565,924	政策費増減額		△ 441	△ 77,482	△ 87,552	40,543						
							比較		100%	89%	86%	108%						
	政策事業費(決算)		641,111	585,493	505,620		一般財源増減額		29,847	△ 35,366	6,103	△ 30,736						
							比較		143%	64%	110%	56%						
	コスト分析と課題		中小企業等の労働者福祉の増進、商工会が小規模事業者に行う経営改善普及事業等に対する補助、企業誘致に伴う助成など市内商工業者の操業を支援するためには必要な予算である。															
指標評価	総合計画											行政評価						
	3 商工業が活気あるまちづくり		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
				H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「買物がしやすいまち」だと思う市民の割合		%	60.9	71.0	65.9	62.8	63.0	69.9	90.2%	B	B						
	関連する施策																	
	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思う市民の割合		%	41.5	57.0	55.8	54.4	54.9	55.3	99.3%	B	B						
	関連する施策																	
	事業所数(二次産業・三次産業の計)		事業所	1,738	1,800	未公表	未公表	未公表	-	-	-	-						
	関連する施策																	
	関連する施策																	
	関連する施策																	
	指標分析と課題		「買物がしやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標については、現状値から確実に上昇しており、これまでの取組の成果が表れている。「事業所数」の指標においてはコロナ禍の影響による市内事業所の減少が見られるため、商工会等関係団体との連携と産業支援センターによる起業支援を進める必要がある。															
評価分析	関連施策																	
	施策名				担当課			指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△					
								成果1	成果2	判定評価	R8の方向性 コスト 成果 改善							
	1 就労機会の拡大を図ります				商工観光課			S		A	維持 拡充	①						
	2 がんばる商業者を応援します				商工観光課、産業支援センター			現未		A	維持 維持	③						
	3 市内企業の応援と進出企業の獲得に努めます				商工観光課			C		A	拡充 拡充	③						

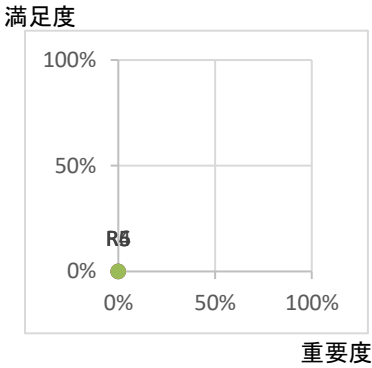
設問	1	「買物がしやすいまち」だと思える市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	60.9%	71.0%	65.9%	62.8%	63.0%	そう思う(満足)	17.2%
						どちらかといえば思う	45.8%
			92.8%	88.5%	88.7%	どちらかといえば思わない	25.6%
						そう思わない(不満)	11.0%
重要度			90.1%	90.0%	90.2%	重要	49.2%
						どちらかといえば重要	41.0%
						重要ではない	8.0%



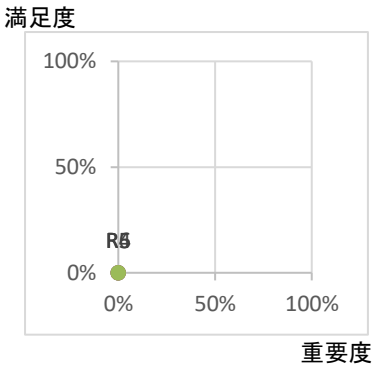
設問	2	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	41.5%	57.0%	55.8%	54.4%	54.9%	そう思う(満足)	5.4%
						どちらかといえば思う	49.5%
			97.9%	95.4%	96.3%	どちらかといえば思わない	35.3%
						そう思わない(不満)	8.6%
重要度			84.0%	83.5%	83.4%	重要	31.5%
						どちらかといえば重要	51.9%
						重要ではない	14.7%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度					そう思う(満足)		
					どちらかといえば思う		
					どちらかといえば思わない		
					そう思わない(不満)		
重要度					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



設定							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度					そう思う(満足)		
					どちらかといえば思う		
					どちらかといえば思わない		
					そう思わない(不満)		
重要度					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



結果分析	設問1から設問2は開始時以上、昨年度以上となった。民間開発等による商業施設や商店、住宅地の開発により利便性が向上していると考えられるが、現在進めている工場用地の造成計画や駅北開発の計画により、さらに満足度を高めていく必要がある。
------	--

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	③	政策内容
行政としても商工会等との連携や企業誘致を進めていく必要があるため、民間主導で現在進めている工場用地計画を推進する。また、人口減少の抑制のためにも駅北開発や民間開発の適正な土地利用を図る必要がある。							

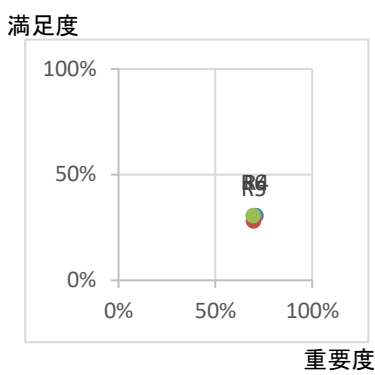
政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち														作成部署	
R6	政策	4 人が訪れるまちづくり														建設経済部	
		SDGsゴール	8	11	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	65,534	73,379	67,922	152,635	政策費増減額	22,003	7,845	△ 5,457	84,713							
						比較	151%	112%	93%	225%							
	政策事業費(決算)	62,911	69,242	64,189		一般財源増減額	18,263	△ 464	11,742	△ 4,961							
						比較	160%	99%	124%	92%							
	コスト分析と課題	本市の認知度向上、交流人口の拡大を推進する予算であり、さらに定住人口の増加や流出抑制を図るためには必要な予算である。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	4 人が訪れるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合	%	20.7	41.0	30.6	28.0	30.6	38.7	79.0%	B	D						
	関連する施策																
	観光交流客数	人	364,388	400,000	284,066	337,544	361,700	396,043	91.3%	現未	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	イベントについてはコロナの影響が無くなり概ね全て開催されたことで観光交流客数は増加している。また、観光や地域間交流など人の交流が盛んなまちだと思う市民の割合も上昇している。今後はイベント等の開催方法や内容を充実させていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△					
							成果 1	成果 2	判定 評価	R8の方向性 コスト 成果 改善							
	1 市民力による魅力発信を支援します				商工観光課		B		A	拡充	拡充	①					
	2 マスコットを活用した情報発信を行います				商工観光課		S		A	維持	維持	③					
	3 広域市町と連携した交流人口の増加を図ります				商工観光課		現未		A	維持	維持	③					

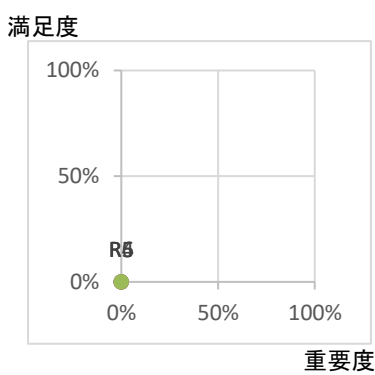
市民アンケート結果

総合評価

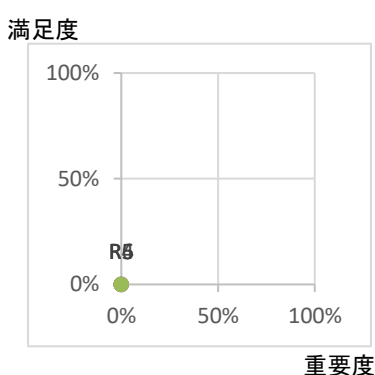
設問	1		「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	20.7%	41.0%	30.6%	28.0%	30.6%	そう思う(満足)	2.4%
						どちらかといえば思う	28.2%
			74.6%	68.3%	74.6%	どちらかといえば思わない	52.4%
						そう思わない(不満)	16.3%
重要度			71.0%	69.8%	69.6%	重要	17.6%
						どちらかといえば重要	52.0%
						重要ではない	28.5%



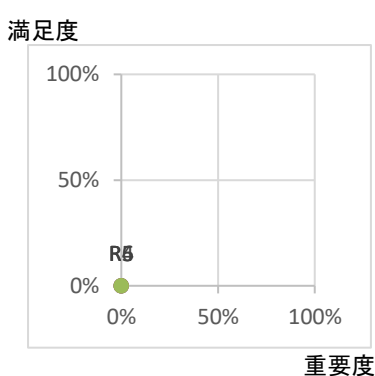
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	市民アンケート結果については、満足度において開始時以上、昨年度以上となった。各種イベントの内容を充実させることが重要である。										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

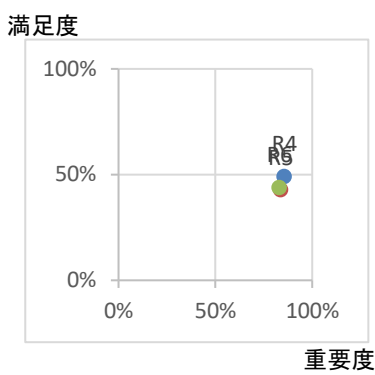
総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	③	政策内容
コロナ禍の影響により様々なイベント等が中止、縮小が複数年続いたことで開催方法や開催内容を変更している。商工会や観光協会等の関係体と話し合いを行い各種イベントの開催方法及び内容を検討し、交流人口を増やしていく必要がある。							

政策評価シート

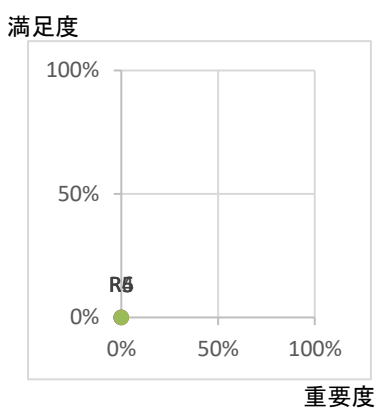
対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち													作成部署	
R6	政策	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり													建設経済部	
		SDGsゴール	16													
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度						
	政策事業費(予算)	2,769	2,909	3,406	4,973	政策費増減額	△ 600	140	497	1,567						
						比較	82%	105%	117%	146%						
	政策事業費(決算)	2,678	2,849	3,363		一般財源増減額	△ 142	82	204	2,108						
						比較	90%	106%	115%	235%						
	コスト分析と課題	消費者被害を未然に防ぐための関係機関との連携強化、消費者トラブルの早期解決を図るためには必要な予算である。														
指標評価	総合計画										行政評価					
	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価					
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度							
	「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思ふ市民の割合	%	45.3	60.0	49.1	42.8	43.9	58.4	75.2%	現未	E					
	関連する施策															
	消費生活センター相談件数	件	197	100	242	231	233	111	47.6%	現未	D					
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
指標分析と課題	消費生活センター相談件数は微増したが、センターが機能している側面もある。引き続き、被害防止のための啓蒙活動と消費生活センターの周知を図り、消費者相談を受けていく。															
評価分析	関連施策															
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△								
			成果1	成果2	判定評価	R8の方向性										
			コスト	成果	改善											
	1 消費者被害の軽減に努めます	商工観光課	現未		A	維持	維持	③								
	2 消費生活センターの機能を強化し、消費者の保護に努めます	商工観光課	現未		A	維持	維持	③								

市民アンケート結果

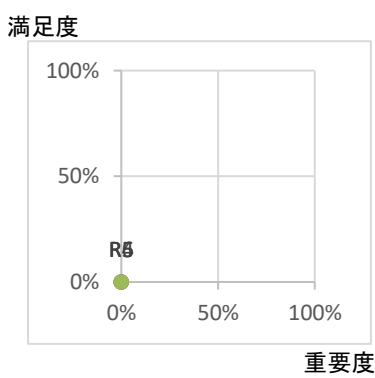
設問	1		「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	45.3%	60.0%	49.1%	42.8%	43.9%	そう思う(満足)	2.8%
						どちらかといえば思う	41.1%
			81.8%	71.3%	73.2%	どちらかといえば思わない	44.5%
						そう思わない(不満)	10.4%
重要度			85.6%	83.7%	83.0%	重要	37.7%
						どちらかといえば重要	45.3%
						重要ではない	15.1%



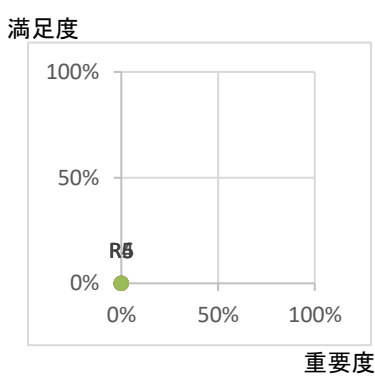
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	市民アンケート結果については、満足度において開始時以下、昨年度以上となった。引き続き関係団体等の協力を得て、啓蒙活動を行い未然防止を行っていく必要がある。														
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	③	政策内容

悪徳商法や特殊詐欺が年々巧妙化している。特に行政職員や銀行員等と名乗り信用させお金をだまし取る手口が増加している。また、受け子が直接金銭等を受け取りに来る例もあることから引き続き啓蒙活動を行うとともに、消費生活センターへの相談を周知していく。

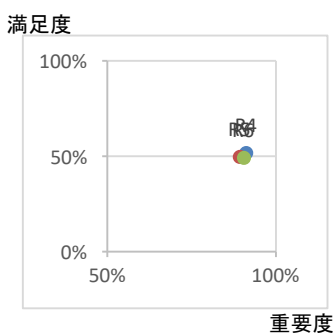
政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	1 防災力を高めるまちづくり														危機管理部	
		SDGsゴール	11	13	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	339,870	410,095	707,005	1,285,910	政策費増減額	120,255	70,225	296,910	578,905							
						比較	155%	121%	172%	182%							
	政策事業費(決算)	330,127	379,571	648,162		一般財源増減額	34,150	29,324	△ 54,667	△ 21,059							
						比較	133%	121%	67%	81%							
	コスト分析と課題	「防災力を高めるまちづくり」には、災害復旧費事業費も含まれており災害発生状況により事業費の増減がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	1 防災力を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合	%	50.4	60.0	51.7	49.6	49.1	58.9	83.3%	現未	C						
	関連する施策																
	「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合	%	68.1	78.0	66.5	64.4	64.6	76.9	84.0%	現未	C						
	関連する施策																
	住宅の耐震化率	%	84.2	95.0	94.5	94.9	95.6	93.8	101.9%	S	B						
	関連する施策																
	地域防災訓練(12月)への参加者数	人	14,318	15,750	7,968	12,085	12,089	15,591	77.5%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	訓練参加者は、本年度は昨年度と比べ微増となっているが、コロナ禍前の状況には戻っていない。訓練参加者をどのように増やしていくかが課題であり、防災力の強化を図るためには、「共助」による地域での防災活動が重要である。このため地域防災訓練においては、過去の災害を教訓に「自助」による日頃の備え、地域での「共助」による助け合いを市民に理解いただき、継続して実施する訓練に加え、一人でも多くの市民が参加できるよう訓練内容など見直していく必要がある。															
	評価分析	関連施策															
施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△						
						成果 1	成果 2	判定 評価	R8の方向性								
								コスト	成果	改善							
1 災害に強いまちをつくります				都市計画課、建設課、危機管理課、健康づくり課、防災強靱化室		S		A	拡充	拡充	①						
2 自主防災組織の体制及び連携強化を図ります				危機管理課		S		A	維持	拡充	①						
3 市民の防災意識の高揚を図ります				予防課、危機管理課		B		B	維持	維持	①						
4 市民の防災活動への参加を推進します				危機管理課		現未		A	拡充	拡充	①						
5 避難情報の適切な伝達と避難体制の強化を図ります				危機管理課		S		A	縮小	維持	①						

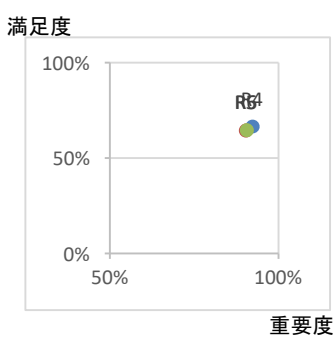
市民アンケート結果

総合評価

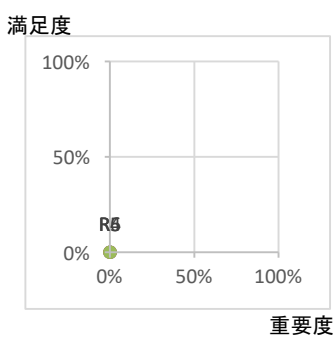
設問	1		「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	50.4%	60.0%	51.7%	49.6%	49.1%	そう思う(満足)	4.7%
						どちらかといえば思う	44.4%
			86.2%	82.7%	81.8%	どちらかといえば思わない	40.1%
						そう思わない(不満)	10.1%
重要度			91.2%	89.3%	90.5%	重要	60.1%
						どちらかといえば重要	30.4%
						重要ではない	8.0%



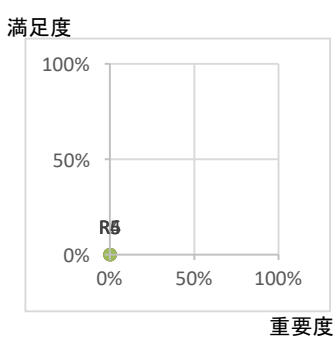
設問	2		「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	68.1%	78.0%	66.5%	64.4%	64.6%	そう思う(満足)	9.4%
						どちらかといえば思う	55.2%
			85.3%	82.6%	82.8%	どちらかといえば思わない	28.0%
						そう思わない(不満)	6.7%
重要度			92.3%	90.3%	90.6%	重要	52.4%
						どちらかといえば重要	38.2%
						重要ではない	7.9%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合が昨年度と比べ、満足度が微減となっており、南海トラフ地震臨時情報が初めて発令されるなど市民の防災意識・関心が高かったことや「公助」への期待感により満足度が低迷している要因と推測される。また、「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」の満足度が昨年度と比べ微増となっており、地域での防災訓練等がコロナ禍前の従来の形で実施されたことが要因と推測される。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方

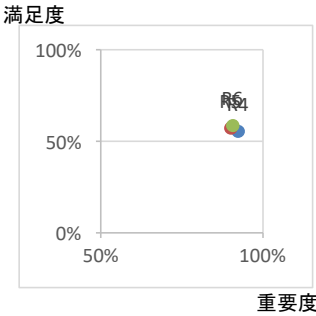
「防災力を高めるまちづくり」については、災害への日頃の備え、自らの命を守ることの大切さ「自助」を継続して伝えていく必要がある。また、「共助」として自主防災会など複数の関係者とのつながりが防災活動においても重要と考える。このため「公助」によるハード対策に加え、住民の災害に対する基礎となる「日頃の備え」の周知・啓発を行い、地域との訓練においては、検討と反省を繰り返し、訓練を実施することで防災力の向上を図っていく。

政策評価シート

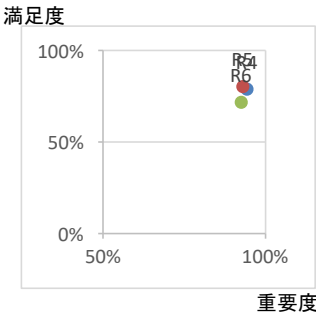
対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署			
R6	政策	2 交通事故・犯罪のないまちづくり														総務部			
		SDGsゴール	3	13	16														
コスト評価		事業費と割合(千円)								予算額比較(千円)									
		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度			R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		
	政策事業費(予算)	92,935		122,931		184,306		97,904		政策費増減額	33,160		29,996		61,375		△ 86,402		
									比較	155%		132%		150%		53%			
	政策事業費(決算)	91,547		119,702		182,083				一般財源増減額	34,464		2,810		6,557		△ 17,273		
									比較	167%		103%		107%		82%			
	コスト分析と課題	『第2次菊川市総合計画』の基本目標4「快適な環境で安心して暮らせるまち」の実現に向け、交通事故や犯罪のないまちづくりに取り組んだ。 コストは、交通安全施設の整備において市単独単独道路維持整備事業費の増加により前年度比で増額となった。その他の事業においては、交通安全運動の展開、防犯灯の設置など、予定していた事業を実施することができた。 今後も、通学路の合同点検による危険箇所の対策工事(ハード)や菊川警察署、交通指導隊、防犯協会等、関係機関との連携(ソフト)を強化しながら、より安全で安心なまちづくりを進めていく。																	
指標評価	総合計画																	行政評価	
	2 交通事故・犯罪のないまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価							
				A	B	C			D	C/D									
				H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度									
	「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合		%	55.8	66.0	55.4	57.3	58.6	64.9	90.3%	B	B							
	関連する施策																		
	「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合		%	71.6	82.0	78.9	80.3	71.7	80.8	88.7%	B	C							
	関連する施策																		
	交通事故年間発生件数		件	314	300	191	191	139	302	217.3%	S	S							
	関連する施策																		
	刑法犯罪認知件数		件	234	200	114	137	143	204	142.7%	S	S							
	関連する施策																		
関連する施策																			
関連する施策																			
関連する施策																			
指標分析と課題		「交通事故の危険が少ないまち」は、前年度比プラス1.3ポイントとなり、目標値には達していないが、現状値を上回った。また、「交通事故年間発生件数」は目標値は大きく下回っており、特に交通死亡事故ゼロ連続日数800日を達成(達成日R7.2.12)し県交通安全対策協議会から表彰を受けた。引き続き交通事故の減少に向け、ハード・ソフト両面からのアプローチが必要である。 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」は、前年度比マイナス8.6ポイントとなり、大きく減少した。これは7月に市内において殺人事件が発生したことによる影響が大きかったものと推察される。また、「刑法犯罪認知件数」は、前年度比プラス6件となり、年々増加している。これは特殊詐欺や自動車の窃盗事件が増えているものと推察される。今後も警察等の関係機関と連携するなか、犯罪の抑止に努める必要がある。																	
評価分析	関連施策																		
	施策名					担当課					指標評価		総合判定評価					R8年度 拡充化○ 縮減化△	
													判定評価	R8の方向性					
	成果1	成果2	コスト	成果	改善														
	1 交通事故を減らすため交通安全活動を推進します					地域支援課					現未	A	維持	維持	①				
	2 交通安全施設の整備を進めます					建設課					C	A	拡充	拡充	①	拡充化○			
	3 犯罪のない明るい地域社会づくりを推進します					地域支援課					C	A	維持	維持	①				

市民アンケート結果

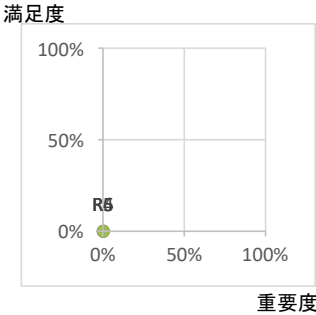
設問	1	「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	55.9%	66.0%	55.4%	57.3%	58.6%	そう思う(満足)	7.3%
						どちらかといえば思う	51.3%
						どちらかといえば思わない	33.0%
						そう思わない(不満)	7.5%
重要度			92.3%	90.1%	90.7%	重要	53.5%
						どちらかといえば重要	37.2%
						重要ではない	7.7%



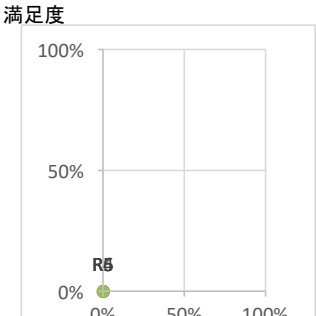
設問	2	「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	71.6%	82.0%	78.9%	80.3%	71.7%	そう思う(満足)	11.1%
						どちらかといえば思う	60.6%
						どちらかといえば思わない	23.7%
						そう思わない(不満)	3.7%
重要度			94.3%	93.0%	92.5%	重要	61.1%
						どちらかといえば重要	31.4%
						重要ではない	5.7%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	交通安全や防犯に対する重要度は、市民の皆様の安心・安全な暮らしに直結するものだけに高く、9割を超える方が「重要」・「どちらかといえば重要」と答えている。 一方、満足度は十分な状況になく、特に「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」においては、前年より大きく下がった。 今後も引き続き、自治会や警察、交通安全協会等、関係機関の皆様と連携し、1件でも交通事故や刑法犯罪の発生を抑制するため、不断の取り組みが求められる。															
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充↑	拡充↑	③	政策内容
「交通事故や犯罪のないまちづくり」は、平穏な生活を営むうえで不可欠な要素であり、不断の取り組みが求められる。 通学路における交通事故防止については、登下校指導の徹底を図るとともに、ドライバーに注意喚起を促す看板やグリーンベルトの設置など、必要に応じた交通規制の実施など、学校・地域・警察等と連携するなか、安全対策を講じていく必要がある。また、交通死亡事故ゼロ連続日数を継続していく必要がある。 防犯については、毎年自治会からの多くのご要望をいただく防犯灯の設置に関し、より照度を上げるとともに、省エネルギー化・電気料の軽減に資する「既存の防犯灯のLED化」に取り組んでいる。また、振り込め詐欺など、高齢者を狙った特殊詐欺もより巧妙化しており、さらに自動車窃盗が相次いでいるなど一層の注意喚起に努めていく。 交通事故や刑法犯罪はいつ起こるかかわからないため、ハード・ソフト両面の取り組みにより、事件・事故の発生を抑え、関係機関と連携し取り組みを進めていく。							

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	3 消防力を高めるまちづくり														消防本部	
		SDGsゴール	11	13	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)							予算額比較(千円)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R4年度	R5年度		R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	179,120	191,977	399,822	339,913	政策費増減額	△ 48,154	12,857	207,845	△ 59,909							
						比較	79%	107%	208%	85%							
	政策事業費(決算)	174,233	168,198	386,294		一般財源増減額	△ 9,617	25,918	△ 6,585	5,191							
						比較	90%	129%	94%	105%							
		コスト分析と課題	令和6年度は、緊急防災・減災事業債及び県の補助金等を有効に活用し、化学消防ポンプ自動車、消防団車両の更新及び耐震性防火水槽2基の整備を行ったが、化学消防ポンプ自動車の更新は翌年度繰越となった。また、中東遠消防指令センターのシステム全更新が完了し、令和7年度から新システムによる運用が開始された。 特殊車両である消防車両や耐震性防火水槽等の整備には高額な費用が掛かるが、あらゆる災害に迅速・的確に対応するためには必要不可欠なものであるため、資機材の耐久性や機能性も含めた仕様について、十分検討したうえで計画的に整備していく必要がある。また、車両や資機材の部品調達が困難な状況等による整備の遅れを避けるため、社会情勢を考慮した予算計画や予算執行を行っていく必要があるとともに、限られた一般財源を有効に活用できるよう、国・県補助金や有利な地方債等の財源を活用していく。														

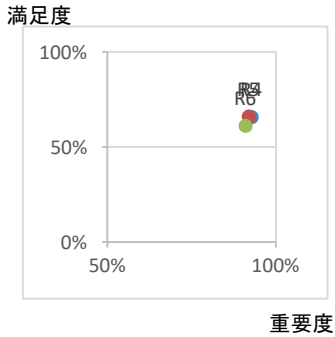
総合計画											行政評価	
指標評価	3 消防力を高めるまちづくり		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価
				H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度		
	「防災・救急体制が整備されたまち」だと思 う市民の割合		%	59.5	70.0	65.7	65.9	61.1	68.8	88.8%	B	C
	関連する施策											
	消防団員の定数に対する充足率		%	87.6	95.0	77.7	73.9	75.5	94.2	80.2%	現未	C
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
指標分析と課題		市民アンケートの満足度が令和5年度より5ポイント近く下がっている。消防としては、激甚化する自然災害への対応など、現場活動の強化のための資機材の整備や、訓練による職員の技術、知識の更なる向上に向け、業務を継続していく必要がある。また、消防団員については、全国的に減少傾向にあり、当市においても厳しい状況が続いているが、消防団は地域防災に必要不可欠な存在である。地域や企業、消防団入団対象世代やその家族などに対し理解と協力を求めるとともに、積極的に勧誘活動を行っていく必要がある。										

関連施策									
施策名				担当課		指標評価	総合判定評価		
				成果1	成果2	判定評価	R8の方向性 コスト	成果	改善
1 消防施設・設備・体制の充実強化を図ります				B		A	維持	維持	①
2 消防技術の向上を目指します				B		A	維持	維持	①
3 消防団の防災力の維持・向上を図ります				現未		A	拡充	維持	①

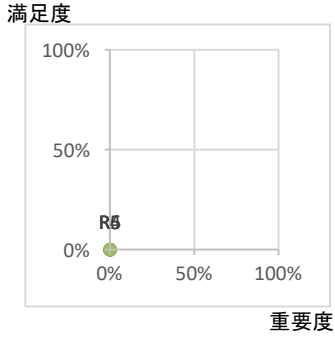
市民アンケート結果

総合評価

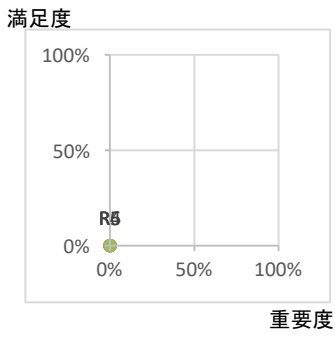
設問	1 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	59.5%	70.0%	65.7%	65.9%	61.1%	そう思う(満足)	5.9%
						どちらかといえば思う	55.2%
			93.9%	94.1%	87.3%	どちらかといえば思わない	31.3%
						そう思わない(不満)	6.4%
重要度			92.8%	91.9%	91.0%	重要	56.1%
						どちらかといえば重要	34.9%
						重要ではない	7.1%



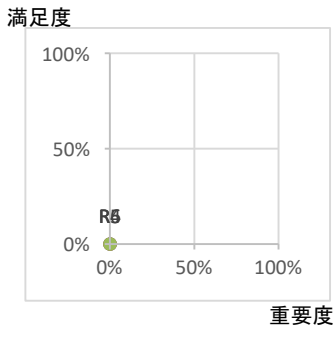
設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

防災・救急体制の重要度が令和5年度より減少しているが、救急業務への関心が希薄となってきていると考える。それでも少子高齢化により、救急需要は増えているため、消防としては、社会の動きが活発化することによる火災や救急、救助出動の増加にも対応しつつ、大規模災害対応についても強化する必要があるため、資機材の整備を進めるとともに、訓練を重ね更なる消防力の向上に努めなければならない。

総合判定評価		B	軽微な見直し検討(一部施策)	R8年度の方向性	コスト 拡充↑	成果 維持→	改善 ① 政策の進め方
消防施設の維持管理、緊急車両や資機材の更新整備に加え、各種訓練や研修、派遣教育等による職員の資質向上や消防指令センターの共同運用により消防力の強化を図り、常に万全な体制を保つことが重要である。また、地域防災の要として必要不可欠である消防団の活動環境の整備等について引き続き検討するとともに、消防団活動の広報を積極的に実施し、地域や企業に対して理解や協力を求めることで団員確保に繋げ、地域防災力の強化を図っていかなければならない。							

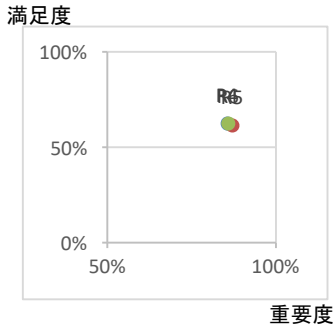
政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署						
R6	政策	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり														生活環境部						
		SDGsゴール	3	6	7	8	11	12	13	14	15	17										
コスト評価			事業費と割合(千円)												予算額比較(千円)							
			R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				R4年度		R5年度		R6年度		R7年度			
	政策事業費(予算)		1,131,332		1,120,366		1,191,005		1,390,886		政策費増減額		42,849		△ 10,966		70,639		199,881			
													比較		104%		99%		106%		117%	
	政策事業費(決算)		1,121,283		1,105,762		1,187,055				一般財源増減額		31,495		△ 26,148		72,285		196,449			
													比較		103%		98%		107%		117%	
	コスト分析と課題		新廃棄物処理施設の整備にかかる衛生施設組合への負担金の増加が見込まれるなど、循環型社会・脱炭素社会の構築を図る上で、環境施策へのコスト増が見込まれている。 環境施策について、市民等の脱炭素に向けた設備投資等への負担軽減策を講じるなど、2050年カーボンニュートラルを実現するための取組が必要である。 また、公共施設における新築等整備時のZEB化推進に向けて積極的に取り組む必要がある。																			
指標評価	総合計画																		行政評価			
	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり							単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価					
								H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だ と思う市民の割合							%	56.8	67.0	62.5	61.4	62.4	65.9	94.7%	B	B					
	関連する施策																					
	「水質が保全され川がきれいなまち」だ と思う市民の割合							%	44.7	60.0	55.5	52.6	54.7	58.3	93.8%	B	B					
	関連する施策																					
	水質環境基準の達成状況(BOD値)菊川: 高田橋(2.0mg/ℓ以内)							m g / ℓ	1.2	2.0	1.4	1.4	1.2	1.9	159.3%	S	S					
	関連する施策																					
	水質環境基準の達成状況(BOD値)牛蒨 川:堂山橋(3.0mg/ℓ以内)							m g / ℓ	2.3	3.0	2.6	2.3	2.2	2.9	132.8%	S	S					
	関連する施策																					
	関連する施策																					
	関連する施策																					
指標分析と課題		令和6年度の実績値は、指標評価の指標1・指標2のいずれも前年度実績値を上回ったものの、期待値・目標値までは達していない結果となった。環境保全・水質保全に関しては、市民の関心も高く、公共下水道や合併浄化槽の普及への理解も促進され、河川環境は良好に保たれている。 課題としては、カーボンニュートラルに向けて、環境政策の重要性が高まっており、脱炭素社会を実現するために、再生可能エネルギーの普及促進や、製品プラスチック等の更なるリサイクルの推進が急務となっている。																				
評価分析	関連施策																					
	施策名							担当課				指標評価 成果1成果2		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△					
														判定 評価	R8の方向性							
												成果1	成果2	コスト	成果	改善						
	1 地球温暖化対策・自然環境の保全を推進します							環境推進課、農林課				B		A	拡充	拡充	①					
	2 水質浄化・生活環境の改善を進めます							下水道課、環境推進課				B		A	維持	維持	①					
	3 循環型社会の推進を図ります							環境推進課				現未		A	維持	拡充	③	拡充化○				
4 適正な汚水処理施設の管理・運営を進めます							下水道課				C		A	維持	維持	①						

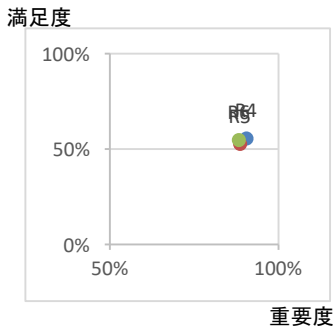
市民アンケート結果

総合評価

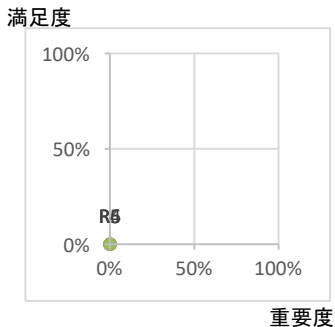
設問	1 「市民や企業が環境保全に取り組むまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	56.8%	67.0%	62.5%	61.4%	62.4%	そう思う(満足)	6.2%
						どちらかといえば思う	56.2%
			93.3%	91.6%	93.1%	どちらかといえば思わない	31.9%
						そう思わない(不満)	4.3%
重要度			85.6%	87.1%	85.9%	重要	31.0%
						どちらかといえば重要	54.9%
						重要ではない	11.8%



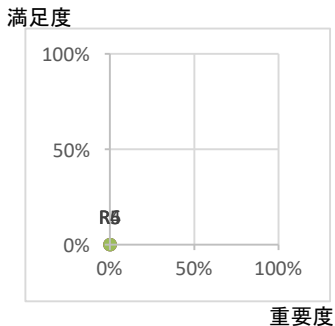
設問	2「水質が保全され川がきれいなまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	44.7%	60.0%	55.5%	52.6%	54.7%	そう思う(満足)	6.4%
						どちらかといえば思う	48.3%
			92.5%	87.7%	91.2%	どちらかといえば思わない	34.0%
						そう思わない(不満)	10.0%
重要度			90.5%	88.6%	88.3%	重要	42.2%
						どちらかといえば重要	46.1%
						重要ではない	9.6%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度					そう思う(満足)		
					どちらかといえば思う		
					どちらかといえば思わない		
					そう思わない(不満)		
重要度					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



結果分析

設問1・2について、満足度は前年度比でそれぞれ上昇しているが、重要度は前年度比で設問1・2ともに下降している。地球温暖化防止への全世界的な取り組みが進む中、本市でも環境保全・水質保全等に関する市民の意識を向上させるなど、脱炭素社会の実現に向けて、市の環境施策の重要度はさらに増大していく傾向にある。

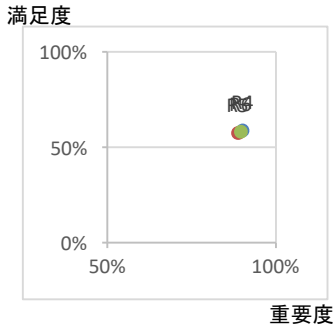
政策評価シート

対象年度		基本目標		4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署		
R6	政策	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり														建設経済部				
		SDGsゴール		9	11	15														
コスト評価			事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)											
			R4年度		R5年度				R6年度		R7年度				R4年度		R5年度		R6年度	
	政策事業費(予算)		1,182,583		1,599,869		4,010,415		948,382		政策費増減額		333,050		417,286		2,410,546		△ 3,062,033	
											比較		139%		135%		251%		24%	
	政策事業費(決算)		807,398		1,393,317		1,571,605				一般財源増減額		△ 105,507		5,366		632,859		△ 622,518	
											比較		77%		101%		274%		38%	
	コスト分析と課題		道路、橋梁、公園などのインフラ整備と維持管理は、交通の利便性向上や安全・安心、憩いの場の提供といった、市民生活には欠かせないものであり、市の魅力向上にもつながるため、引き続き魅力あるまちづくりに繋げていく必要がある。																	
指標評価	総合計画										行政評価									
	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり			単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価							
					A	B	C			D	C/D									
						H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思う市民の割合			%	59.4	64.0	58.7	57.5	58.1	63.5	91.5%	現未	B							
	関連する施策																			
	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思う市民の割合			%	43.5	59.0	41.8	39.9	40.7	57.3	71.1%	現未	E							
	関連する施策																			
	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思う市民の割合			%	56.6	62.0	55.7	57.0	58.3	61.4	95.0%	B	B							
	関連する施策																			
	都市計画道路の整備率			%	63.5	65.5	66.4	66.8	67.8	65.3	103.9%	S	B							
	関連する施策																			
	コミュニティバス1日当りの利用者数			人／日	124	145	124	129	153	143	107.0%	S	B							
	関連する施策																			
関連する施策																				
関連する施策																				
指標分析と課題			(都)青葉通り嶺田線((市)井矯堂線)や(都)西方高橋線(掛浜バイパス)、(市)大須賀金谷線などの整備を進めている。広域的幹線道路としての役割が大きいため早期完成を目指していく。また、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業を計画どおりに進め早期に事業効果を発現させる必要がある。 新型コロナウイルスの影響も治まり、コミュニティバスの1日当たりの利用者数は増加した。引き続き利用促進を図っていく。																	
評価分析	関連施策																			
	施策名					担当課		指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△							
										判定評価	R8の方向性									
								成果1	成果2	コスト	成果	改善								
	1 良好な住環境をつくります					都市計画課		S		A	維持	維持	①							
	2 幹線道路や生活道路を整備します					都市計画課、建設課		S		A	拡充	拡充	①	拡充化○						
	3 公園などの整備を進めます					都市計画課、農林課		B		A	維持	拡充	①							
	4 交通事業者と連携して交通手段の確保に努めます					地域支援課		S	S	A	維持	維持	①							
5 橋梁や道路施設を適切に維持管理し、長寿命化を図ります					建設課		S		A	拡充	拡充	①	拡充化○							
6 市営住宅を適切に維持管理し、長寿命化を図ります					都市計画課		S		A	拡充	維持	①								

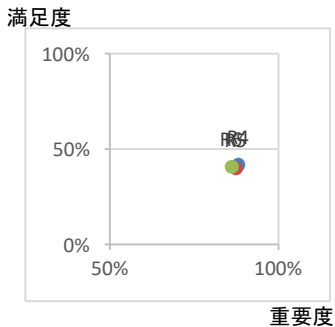
市民アンケート結果

総合評価

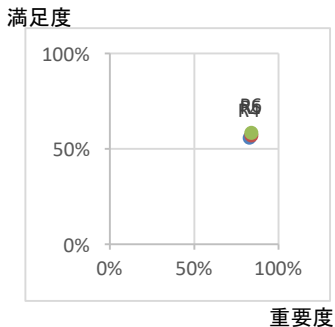
設問	1		「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	59.4%	64.0%	58.7%	57.5%	58.1%	そう思う(満足)	10.5%
						どちらかといえば思う	47.6%
			91.7%	89.8%	90.8%	どちらかといえば思わない	28.4%
						そう思わない(不満)	12.7%
重要度			90.1%	88.8%	89.6%	重要	42.4%
						どちらかといえば重要	47.2%
						重要ではない	8.5%



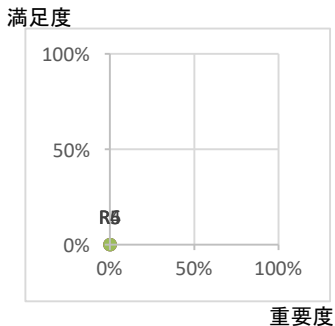
設問	2		「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	43.5%	59.0%	41.8%	39.9%	40.7%	そう思う(満足)	7.8%
						どちらかといえば思う	32.9%
			70.8%	67.6%	69.0%	どちらかといえば思わない	40.0%
						そう思わない(不満)	18.2%
重要度			88.1%	87.4%	86.1%	重要	45.1%
						どちらかといえば重要	41.0%
						重要ではない	11.8%



設問	3		「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	56.6%	62.0%	55.7%	57.0%	58.3%	そう思う(満足)	11.3%
						どちらかといえば思う	47.0%
			89.8%	91.9%	94.0%	どちらかといえば思わない	30.6%
						そう思わない(不満)	10.4%
重要度			82.8%	83.8%	83.8%	重要	28.9%
						どちらかといえば重要	54.9%
						重要ではない	14.4%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

市民アンケート結果については、満足度において設問1から設問2まで開始時以下、昨年度以上、設問3は開始時以上、昨年度以上となった。各項目ともに上昇となるよう、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業や(都)青葉通り嶺田線(井矯堂線)を始めとした各種インフラ整備を進めていく必要がある。

総合判定評価		A	見直し・検討無し		R8年度の方向性		コスト	成果	改善	
							拡充↑	拡充↑	①	政策の進め方

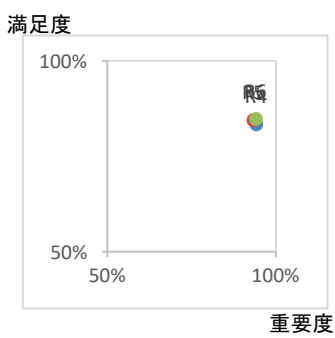
本市を選んでもらうためにも、良好な住環境や道路・公園の整備は重要である。ポテンシャルの高いインフラ整備を計画的に進め、人口減少の抑制に繋げていく必要がある。引き続き、本市を選んでもらい、住みよい菊川市を目指し、幹線道路の整備及び公園の維持管理を計画的に進めていく。

政策評価シート

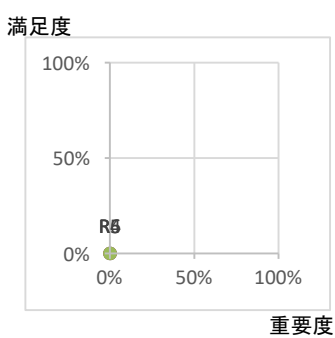
対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R6	政策	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり														生活環境部	
		SDGsゴール	6														
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	8,791	8,418	8,237	7,783	政策費増減額	△ 225	△ 373	△ 181	△ 454							
						比較	98%	96%	98%	94%							
	政策事業費(決算)	8,761	8,418	8,237		一般財源増減額	△ 225	△ 373	△ 181	△ 454							
						比較	98%	96%	98%	94%							
	コスト分析と課題	上水道事業は、安定した水資源の確保と安全で良質な水質管理がされており、水道事業会計において適正に処理されている。 ただし、人口減少に伴う水道料金収入の減少や水道施設の更新需要の増大、自然災害への備えなど、様々な経営課題に対応し、安全で強靱な水道経営を持続するために料金改定の検討が必要である。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「上水道が安定して供給されているまち」だと思ふ市民の割合	%	83.0	88.0	83.4	84.5	84.8	87.4	97.0%	B	B						
	関連する施策																
	上水道有収率	%	85.7	90.0	84.3	84.3	84.3	89.5	94.2%	現未	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	指標評価の指標1では、令和6年度の実績値は前年度比0.3ポイントの上昇であるが、期待値・目標値をともに下回る結果となった。自己水源が乏しく、大井川の水を受水している現状を多くの市民が理解する中で、安定的かつ安全に水道水を供給出来ていることから満足度は一定の水準を維持していると考える。 課題としては、大切な水道水を無駄にしないよう、令和5年度に策定した管路耐震化計画に基づき、老朽管路の更新整備を計画的に進め、漏水防止と管路耐震化を促進させ、有収率を更に向上させる必要がある。															
	評価分析	関連施策															
施策名		担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R8の方向性											
			コスト	成果	改善												
1 安定した水資源の確保と総合的な水質管理体制の構築を図ります		水道課	B		A	維持	維持	①									
2 管路の整備及び改良を進めます		水道課	S		A	維持	維持	①									
3 水道施設の管理及び整備を進めます		水道課	S		A	維持	維持	①									
4 安定財源の確保を図り、健全な事業経営を継続します		水道課、環境推進課	S		A	維持	維持	①									

市民アンケート結果

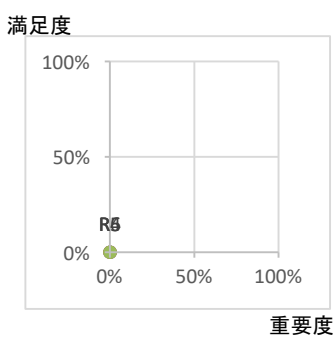
設問	1	「上水道が安定して供給されているまち」と思う市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	83.0%	88.0%	83.4%	84.5%	84.8%	そう思う(満足)	27.5%
						どちらかといえば思う	57.3%
			94.8%	96.0%	96.4%	どちらかといえば思わない	11.2%
						そう思わない(不満)	3.4%
重要度						重要	55.3%
			94.2%	93.4%	94.1%	どちらかといえば重要	38.8%
						重要ではない	4.1%



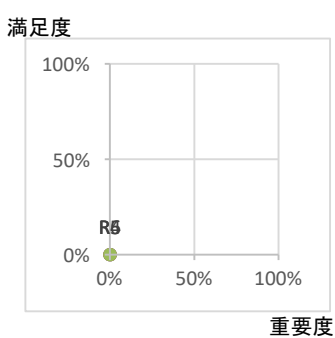
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



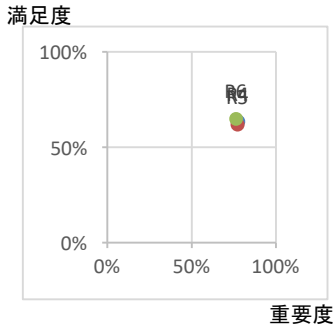
結果分析 満足度、達成率ともに前年度から上昇し、重要度も前年度から上昇している。数値は高い水準で推移しており、リニア新幹線工事などによる「大井川の水への関心」が要因の一つにあると考える。また、大井川広域水道企業団から安定的な受水を継続しており、市民の満足度も高い評価となっていると考える。

政策評価シート

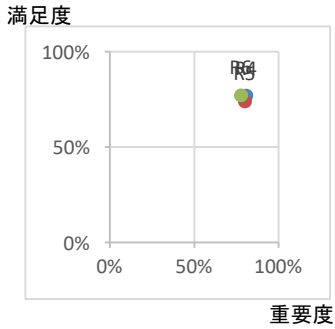
対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち														作成部署	
R6	政策	1 市民と行政との協働によるまちづくり														総務部	
		SDGsゴール	16	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)								予算額比較(千円)							
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	183,316	181,499	207,270	236,292	政策費増減額	△ 1,337	△ 1,817	25,771	29,022							
						比較	99%	99%	114%	114%							
	政策事業費(決算)	174,936	172,852	200,014		一般財源増減額	8,692	429	7,490	24,469							
						比較	106%	100%	105%	114%							
	コスト分析と課題	第2次菊川市総合計画の基本目標5「まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち」の実現に向け、市民と行政との協働によるまちづくりに取り組んだ。 1%地域づくり活動交付金は、毎年一定数新規の活動に関する申請があり、行政提案課題への取り組みを実施していただける団体もあるため引き続き市民協働に取り組んでいく。 地区センター管理費、庁舎東館管理費は電気料などの高騰や人件費の上昇により、コスト増となった。 地域間交流事業については、市制20周年記念事業雪まつりによりコスト増となった。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	1 市民と行政との協働によるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思う市民の割合	%	59.4	69.0	63.5	61.8	64.9	67.9	95.5%	B	B						
	関連する施策																
	「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思う市民の割合	%	72.3	82.0	77.0	73.9	77.1	80.9	95.3%	B	B						
	関連する施策																
	市ホームページへのアクセス件数(年間)	件	290,335	315,000	703,015	634,646	650,309	312,259	208.3%	S	S						
	関連する施策																
	市民協働センターへの団体登録数	団体	0	90	88	88	97	80	121.3%	S	A						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	「地域のコミュニティ活動が市のまちづくりに活かされているまち」については前年度比プラス3.1ポイントとなり現状値は上回っているが期待値には達していない。「広報誌・市ホームページ・出前行政講座を通して市の情報が発信されているまち」については、前年度比プラス3.2ポイントとなり現状値は上回っているが期待値には達していない。 「市ホームページへのアクセス件数」は、前年度から15,663件増加している。これは、指標の上昇にも言えることだが、市公式SNSのフォロー数が3,090人増えており、効果的な情報発信に取り組んできた成果と言える。 「市民協働センターへの登録団体数」は前年度から9団体増えている。これは市民活動に取り組む若者団体などの増加である。引き続き市民協働センターと連携し支援を行っていく。															
	評価分析	関連施策															
施策名		担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R8の方向性											
			コスト	成果	改善												
1 地域のために活動している市民や団体を支援します		地域支援課	S		A	維持	維持	①									
2 まちづくりを進めるために市政情報を共有します		市長公室、地域支援課、企画政策課	S		A	維持	拡充	①									
3 地域文化の交流を通して人のつながりを地域の活性化に活かします		地域支援課	現未		A	維持	維持	①									

市民アンケート結果

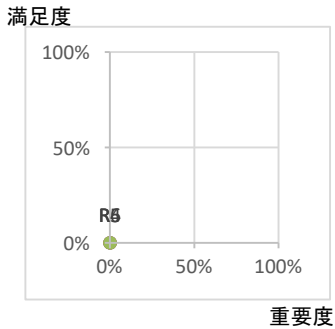
設問	1	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思う市民の割合					
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)				
			R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	59.3%	69.0%	63.5%	61.8%	64.9%	そう思う(満足)	6.6%
						どちらかといえば思う	58.3%
			92.0%	89.6%	94.1%	どちらかといえば思わない	29.7%
重要度						そう思わない(不満)	4.0%
			77.6%	77.2%	76.4%	重要	18.3%
						どちらかといえば重要	58.1%
						重要ではない	21.2%



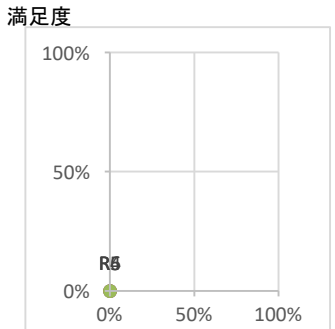
設問	2	「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思う市民の割合					
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R4年度	R5年度	結果(満足度下段:達成率)		
			R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	72.3%	82.0%	77.0%	73.9%	77.1%	そう思う(満足)	16.0%
						どちらかといえば思う	61.1%
			93.9%	90.1%	94.0%	どちらかといえば思わない	18.8%
重要度						そう思わない(不満)	3.1%
			80.9%	80.1%	77.8%	重要	22.6%
						どちらかといえば重要	55.2%
						重要ではない	19.6%



設問							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R4年度	R5年度	結果(満足度下段:達成率)		
			R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R4年度	R5年度	結果(満足度下段:達成率)		
			R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



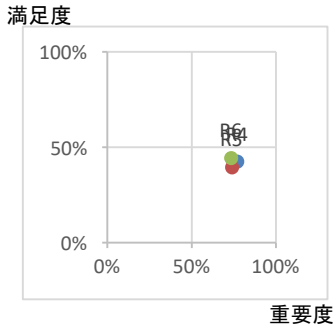
結果分析	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」と「広報誌・市ホームページ・出前行政講座などを通して市の情報が発信されているまち」とも、満足度は上昇した。これは「市ホームページへのアクセス件数」も前年度から15,663件増加しており、市公式SNSのフォロー数も3,090人増えているため、効果的な情報発信に取り組んできた成果が表れている。															
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価		B	軽微な見直し検討(一部施策)	R8年度の方向性	コスト 維持→	成果 拡充↑	改善 ①	政策の進め方
持続可能な地域活動・市民活動が展開されるよう、市民協働センターとも連携するなか、コミュニティ協議会と市民活動団体とのマッチングを図るなど、市としてもサポートを進めていく。 また、令和6年度からは、こども・若者参画交付金を創設し、活動実施年度に交付金の申請が行える仕組みとなったことから、こどもや若者がまちづくりに参画する機運を高めていきたい。 自治会は行政の大切なパートナーであり、その協力無くして、まちづくりは進められない。策定した「自治会の負担軽減に向けた取組方針」により、全庁を挙げて、自治会の負担軽減に引き続き取り組んでいく。 市民に届く情報発信、菊川市の魅力が伝わる情報発信が求められている。これまでも広報紙の充実やホームページのリニューアルを行うとともに、SNSを活用した即時性の高い情報発信にも取り組んできた。引き続き効果的な情報発信等について努めていく。								

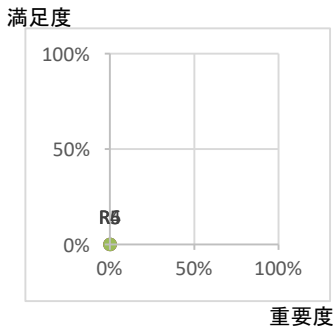
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち														作成部署	
R6	政策	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり														総務部	
		SDGsゴール	11	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	10,463	17,072	21,221	22,084	政策費増減額	3,504	6,609	4,149	863							
						比較	150%	163%	124%	104%							
	政策事業費(決算)	8,339	13,563	12,773		一般財源増減額	3,090	2,188	3,337	813							
						比較	322%	149%	150%	108%							
	コスト分析と課題	知名度向上に向けての事業では、市制20周年記念事業を年間を通して実施したことによりコストは増加した。一方で、移住・定住では、国の交付金を活用した、移住就業支援事業費補助金や結婚新生活支援事業費補助金の実績の減によりコストは減少している。少子化・人口減少対策は重要課題であり、移住先として選ばれるための知名度向上や出会い・結婚支援、移住施策について、今後も国等の交付金を活用し実施していく。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「市内外に市の魅力が発信されているまち」 だと思う市民の割合	%	31.1	46.0	42.5	39.5	44.3	44.3	100.0%	B	B						
	関連する施策																
	「菊川市に行ったことがある」「菊川市を知っている」と回答した人の割合	%	63.8	90.0以上	—	—	—	—	—	—	—						
	関連する施策																
	新聞(静岡・中日)への掲載件数(年間)	件	380	410	343	330	315	407	77.4%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合は、前年度比プラス4.8ポイントと上昇している。これは、市公式SNSのフォロワー数も3,090人増えているため、効果的な情報発信に取り組んできた成果が表れているものである。 一方で、新聞への年間掲載件数は前年度から減少したが、引き続き適切な時期の情報提供、情報提供内容の工夫など情報の質を向上させるように改善に取り組んでいく。															
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△					
							成果1	成果2	判定評価	R8の方向性							
										コスト	成果	改善					
	1 知名度向上に向けて情報を発信します				市長公室		S		A	維持	拡充	①	拡充化○				
	2 移住・定住に関する情報を積極的に発信します				市長公室、企画政策課		S		A	維持	拡充	①	拡充化○				

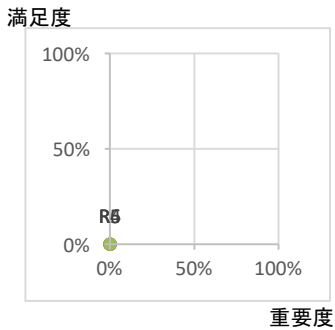
設問	1「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	31.0%	46.0%	42.5%	39.5%	44.3%	そう思う(満足)	4.5%
						どちらかといえば思う	39.8%
			92.4%	85.9%	96.3%	どちらかといえば思わない	44.2%
						そう思わない(不満)	10.2%
重要度			77.0%	73.9%	73.4%	重要	20.1%
						どちらかといえば重要	53.3%
						重要ではない	24.3%



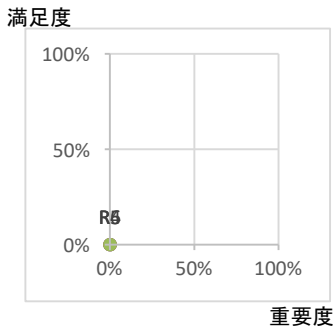
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



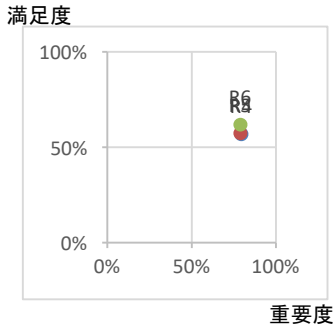
結果分析	重要度は70%台で推移している。満足度は前年比プラス4.8ポイントの上昇であるが40%前後で重要度との乖離がある。自らが住むまちの認知度向上、シビックプライドを醸成するために市の魅力のPRが重要だと思うことや、日々の話題の発信・提供を求めている市民が多いと考える。						
------	--	--	--	--	--	--	--

政策評価シート

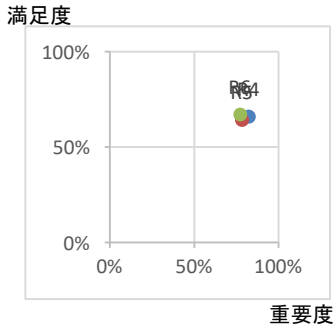
対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち														作成部署		
R6	政策	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり														総務部		
		SDGsゴール	5	10	16	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)								予算額比較(千円)								
		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度			R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
	政策事業費(予算)	10,361		10,177		9,093		11,899		政策費増減額	1,296		△ 184		△ 1,084		2,806	
									比較	114%		98%		89%		131%		
	政策事業費(決算)	10,186		9,981		8,816				一般財源増減額	320		△ 147		△ 1,602		4,072	
									比較	105%		98%		77%		175%		
	コスト分析と課題	令和3年度に策定した「第4次菊川市男女共同参画プラン」及び「第4次菊川市多文化共生推進行動指針」は終期が令和8年度のため、令和6年度は中間見直しを実施した。 また、人権擁護活動は、前年度に掛川市、御前崎市、菊川市3市で組織する、協議会の当番市として人権講演会を開催していたため、令和6年度はコストが減少した。 男女共同参画・多文化共生・人権擁護とも、その推進に向けては、市民の皆さまの意識を醸成することが不可欠であるため、より訴求対象に届く啓発を行っていく必要がある。																
指標評価	総合計画																	行政評価
	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり							単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価	
									A	B	C			D	C/D			
	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」だと思ふ市民の割合							%	48.6	64.0	56.9	57.3	61.9	62.3	99.4%	B	B	
	関連する施策																	
	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合							%	57.1	67.0	65.9	64.3	67.0	65.9	101.7%	S	B	
	関連する施策																	
	市協議会、委員会などの女性登用率							%	26.5	33.3	28.6	28.5	29.0	32.5	89.1%	B	C	
	関連する施策																	
	多文化共生サポーター数							人	0	10	29	36	37	9	411.1%	S	S	
	関連する施策																	
	関連する施策																	
関連する施策																		
指標分析と課題							「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」は、前年度比4.6ポイント上昇し、現状値を上回っているが、期待値には達していない。 「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」は、前年度比2.7ポイント上昇し、目標値に到達した。 また、市協議会、委員会などへの女性登用率は29.0%となり、前年度比0.5ポイント上昇した。分野によっては依然として0%の委員会等もあり、より広範な分野で女性の視点を生かす取り組みが求められる。 多文化共生サポーター数は、前年度比プラス1人となった。											
評価分析	関連施策																	
	施策名							担当課		指標評価		総合判定評価					R8年度 拡充化○ 縮減化△	
												R8の方向性						
	判定評価		コスト	成果	改善													
	1 男女が平等な立場で参画できる社会づくりに取り組みます							地域支援課		B		A	維持	維持	①			
	2 外国人が暮らしやすい環境を整備します							地域支援課		S		A	維持	維持	①			
	3 人権擁護活動を推進します							市民課		B		A	維持	維持	①	拡充化○		

市民アンケート結果

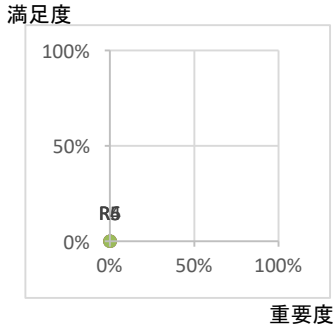
設問	1	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	48.5%	64.0%	56.9%	57.3%	61.9%	そう思う(満足)	4.9%
						どちらかといえば思う	57.0%
			88.9%	89.5%	96.7%	どちらかといえば思わない	29.7%
重要度						そう思わない(不満)	6.0%
			79.5%	79.0%	79.0%	重要	23.2%
						どちらかといえば重要	55.8%
						重要ではない	18.4%



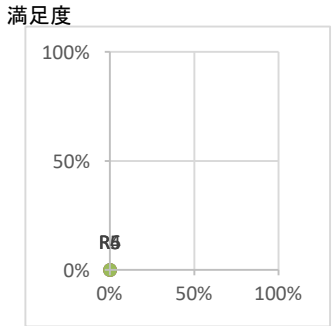
設問	2	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	57.1%	67.0%	65.9%	64.3%	67.0%	そう思う(満足)	8.1%
						どちらかといえば思う	58.9%
			98.4%	96.0%	100.0%	どちらかといえば思わない	26.0%
重要度						そう思わない(不満)	5.4%
			82.3%	78.4%	77.3%	重要	21.2%
						どちらかといえば重要	56.1%
						重要ではない	20.4%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」・「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」の設問において、「重要でない」と答えた人の割合が、それぞれ18.4%・20.4%残っていることが、この問題の難しさを物語っている。

一方で、満足度は前年度比で上昇していることから、引き続き全庁を挙げて「第4次菊川市男女共同参画プラン」及び「第4次菊川市多文化共生推進行動指針」に掲げた事業を推進していくことが求められる。

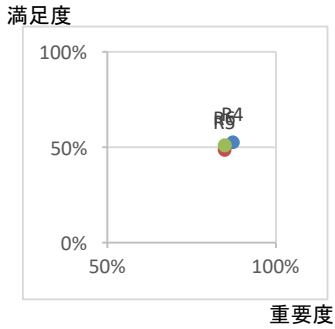
また、市民の皆様意識に訴える啓発活動に取り組んでいく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	拡充↑	①	政策の進め方
男女共同参画及び多文化共生ともに「重要でない」と答えた人の割合が、それぞれ18.4%・20.4%いる現状が、この問題に対する難しさを物語っているため、市民の皆様意識に訴える啓発活動にさらに取り組んでいく必要がある。第4次男女共同参画プラン及び第4次多文化共生推進行動指針ともに終期が令和8年度のため、令和7年度は改訂に向けたアンケートなどの準備を行い改訂の準備を進める。引き続き現行のプラン、指針に基づき、男女共同参画及び多文化共生への市民理解が深まるよう様々な支援や地域づくりなどに取り組んでいく。							

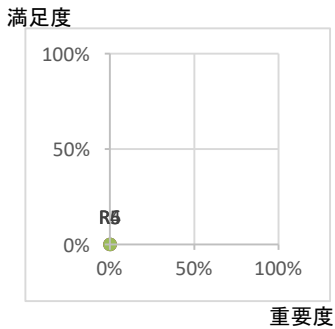
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち														作成部署	
R6	政策	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり														企画財政部	
		SDGsゴール	8	10	11	16	17										
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
	政策事業費(予算)	1,392,552	668,454	3,216,170	1,403,368	政策費増減額	572,626	△ 724,098	2,547,716	△ 1,812,802							
						比較	170%	48%	481%	44%							
	政策事業費(決算)	1,375,954	645,483	3,188,562		一般財源増減額	△ 175,987	15,210	13,941	57,349							
						比較	77%	103%	102%	109%							
	コスト分析と課題	事業費の大幅な増額は、防災対策強硬化事業分担金や臨時財政対策債償還基金費の基金積立と自治体情報システム標準化・共通化に向けた事業費、制度改正による会計年度任用職員人件費が主な要因である。今後は、正規職員も含めた人件費の上昇や自治体情報システムの標準化への移行費用と運用費の増加が見込まれる。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価						
			H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	R6年度								
	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思う市民の割合	%	42.7	58.0	52.5	48.6	50.9	56.3	90.4%	B	B						
	関連する施策																
	将来負担比率	%	49.3	40.0	算定なし	算定なし	未公表	-	-	-	-						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	効率的・効果的な行財政運営が行われているまちだと思う市民の割合が、再び50%を上回ったが、期待値には届いていない。市民の皆さまには、広報紙やHPにより市の取組みや財政状況を周知しているが、認知されていない。将来負担比率は、令和4年、5年度は「算定なし」で、令和6年度分は決算を基に今後算定作業が始まるが大きく悪化することはないと思われ、今後も健全な財政運営に努めていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R8年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R8の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 市役所の組織力を高めます	総務課	S		A	拡充	拡充	①									
	2 ICT(情報通信技術)を活用し効率的な行政運営をします	企画政策課	S		A	拡充	拡充	①	拡充化○								
	3 健全で安定した行財政運営を構築します	財政課、企画政策課、小笠市民課、税務課	現未		A	維持	維持	①									
	4 新公共経営と共創による行政運営を推進します	財政課	現未		A	維持	維持	①									
5 他市町との広域連携を推進します	企画政策課	C		B	縮小	維持	①										

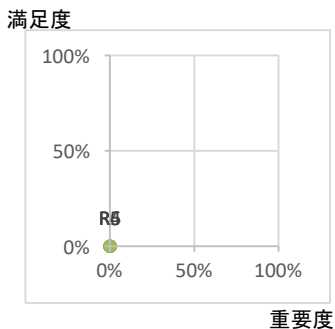
設問	1		「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度	42.7%	58.0%	52.5%	48.6%	50.9%	そう思う(満足)	3.4%
						どちらかといえば思う	47.5%
			90.5%	83.8%	87.8%	どちらかといえば思わない	37.1%
重要度						そう思わない(不満)	10.3%
						重要	38.0%
			87.2%	84.8%	84.8%	どちらかといえば重要	46.8%
						重要ではない	12.6%



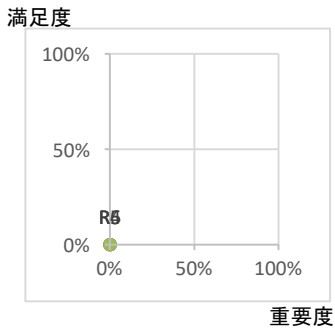
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R4年度	R5年度	R6年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

満足度50.9%は前年度より2.3ポイント、開始時(H27)より8.2ポイント上昇している。重要度は84.8%と高く、将来の少子高齢・人口減少社会を見据えれば、デジタル化、行財政改革、民間活力の活用などによる効率的・効果的な行財政運営を進め、広報紙などを通じ、市民の皆さまに分かりやすく伝えていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R8年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充 ↑	拡充 ↑	①	政策の進め方
財政機能を高めるためには、自主財源の確保とともに、職員一人ひとりが常にコスト意識を持ち、生産性を高めつつ、個々の事業を見直し、効率的・効果的な行財政運営を進めていく必要がある。							
また、限られた職員で効率よく業務を進めるためには、AIやRPAの活用などDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も不可欠となる。相応のコストが必要となるが、働き方改革とともに経常経費の削減につなげていくことが求められる。							